畑地帯総合土地改良事業伊那西部地区

伊勢並遺跡

埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

1993. 3

上伊那地方事務所
伊那市教育委員会

畑地帯総合土地改良事業伊那西部地区

伊勢並遺跡

埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

1993. 3

上伊那地方事務所
伊那市教育委員会

序

昨年度にひきつづき畑地帯総合土地改良事業伊那西部地区が実施されるにあたり、伊勢並遺跡の緊急発掘調査を実施いたしました。

昨年度実施した調査においては遺構の検出がなく、遺物の出土が少数で、遺跡の北端部分ではないかと考えられていました。今回の調査においては住居址などの遺構も検出され、縄文時代の土器をはじめとして多くの遺物が出土しました。

この事業は、道路の拡幅と灌漑用水パイプの設置であり、調査方法や範囲に制限もありますが、伊勢並遺跡は旧石器時代からの遺跡として知られており、今後この事業が進むにつれて本遺跡においても研究の成果が現れてくると思われます。

近年において開発事業などの数は増加の一途をたどっている中で、埋蔵文化財の保護につきましては、現状での保存がいちばん望ましい方法なのでありますが、大変むずかしい問題となってきております。私たちは、発掘調査の結果を記録保存という形で残し、先人達が遺した貴重な人類の足跡を後世に伝えていかなければなりません。

今回の発掘調査にあたり、県教育委員会文化課及び上伊那地方事務所職員の方々のご指導をいただき、発掘調査団長の友野良一先生をはじめ、調査員の先生方、作業員のみなさんのご努力により、ここに無事報告書を刊行するはこびとなりました。ご協力をいただいた方々に心より感謝申し上げるとともに、この報告書が今後教育文化の向上に活用されることを願っております。

平成５年３月

伊那市教育委員会

教育長　宮　下　安　人

例　言

1．本書は、平成４年度に実施された畑地帯総合土地改良事業伊那西部地区に伴なう、埋蔵文化財緊急発掘調査の報告書である。

2．この緊急発掘調査は、上伊那地方事務所の委託により、伊那市教育委員会が遺跡発掘調査団を編成し、発掘調査団に事業を委託して実施した。

3．本書の執筆者及び図版製作者は次のとおりである。

第Ⅰ章、第Ⅱ章第１節	早川　宏
第Ⅱ章第２節	松島信幸・寺平　宏
第Ⅱ章第３節	早川　宏・友野良一
第Ⅲ章	早川　宏・友野良一
図版制作	友野良一・松島信幸・寺平　宏・早川　宏
写真撮影	友野良一・早川　宏

4．本書第Ⅱ章第２節「地形及び地質」については、畑地帯総合土地改良事業伊那西部地区小黒南原・伊勢並遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書（伊那市教育委員会1992）の第Ⅱ章第３節「地形及び地質」を補ったもので、基本的な資料の多くは前書による。

5．本書の編集は、主として伊那市教育委員会が行った。

6．出土遺物及び実測図類は、伊那市考古資料館に保管してある。

目　次

口　絵　上　A地区調査範囲
　　下　B・C地区調査範囲
序
例　言
目　次
挿図目次
表目次
図版目次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯
第1節　発掘調査に至るまでの経過 …… 1
第2節　調査会の組織 …… 1
第3節　発掘調査の経過 …… 2

第Ⅱ章　遺跡の環境
第1節　遺跡の位置 …… 5
第2節　地形及び地質 …… 6
第3節　歴史的環境 …… 14

第Ⅲ章　調査
第1節　調査の概要 …… 20
第2節　遺構と遺物 …… 26

まとめ …… 39

参考文献

図　版

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置（１／25,000）…… 5
第２図　小黒川扇状地と小沢川扇状地の形態（１／30,000）…… 7
第３図　小黒川・小沢川の両扇状地と集水域の形と面積（１／10,000）…… 9
第４図　伊那市付近の活断層分布と中央低地帯（１／50,000）…… 12
第５図　周辺の遺跡分布図（１／10,000）…… 17
第６図　調査範囲設定図（１／5,000）…… 19
第７図　Ａ地区調査図（平面１／500・断面１／60）…… 21
第８図　Ｂ・Ｃ地区調査図（１／500）…… 23
第９図　Ｂ・Ｃ地区トレンチ断面図（１／60）…… 25
第10図　第１号住居址実測図（１／60）…… 26
第11図　第１号住居址出土遺物実測図 …… 27
第12図　第２号住居址実測図（１／60）…… 28
第13図　第２号住居址出土遺物実測図 …… 28
第14図　八人塚古墳実測図（１／60）…… 29
第15図　Ａ－１トレンチ出土遺物実測図 …… 31

表　目　次

表１　出土遺物一覧 …… 32

図 版 目 次

図版 1　上　第 1 号住居址
　　下　第 2 号住居址

図版 2　上　八人塚古墳
　　中　A－1トレンチ（西から）
　　下　A－1トレンチ（東から）

図版 3　上　B－1トレンチ（西から）
　　中　B－1トレンチ（東から）
　　下　B－2トレンチ（西から）

図版 4　上　B－2トレンチ（東から）
　　中　C－1トレンチ（西から）
　　下　C－1トレンチ（東から）

図版 5　遺物出土状況

図版 6　上　第 1 号住居址出土遺物
　　下　A－1トレンチ出土遺物

図版 7　上　第 2 号住居址出土遺物
　　下　同上（裏）

図版 8　A－1トレンチ出土遺物

図版 9　表面採集遺物

図版10　第 1 号住居址・A－1トレンチ出土石器

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　発掘調査に至るまでの経過

平成３年９月　畑地帯総合土地改良事業伊那西部地区に係わる埋蔵文化財の保護協議を行なう。出席者は、長野県教育委員会、上伊那地方事務所、伊那市教育委員会。

平成４年１月　畑地帯総合土地改良事業伊那西部地区に係わる埋蔵文化財発掘調査を平成４年度文化財関係補助事業として、計画書を提出。

６月　平成４年度文化財関係国庫補助事業計画の内定。
平成４年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書の提出。

９月　平成４年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知。

11月　畑地帯総合土地改良事業伊那西部地区埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約を締結。

第２節　調査会の組織

伊那市教育委員会

委員長	下平　繁	(小田切　仁)
委員長代理	兼子康彦	
委員	小田切　仁	(岸　敏子)
委員	岸　敏子	(小松光男)
教育長	宮下安人	
教育次長	有賀博行	

事務局	小田切　修	(社会教育課長)
	林　俊宏	(社会教育係長)
	渋谷　勝	(青少年教育係長)
	浦野節子	(社会教育係)
	城倉三喜生	(社会教育係)
	早川　宏	(社会教育係)

発掘調査団

団　　長	友野良一	(日本考古学協会会員)
調査員	松島信幸	(日本第四紀学会会員)
	寺平　宏	(日本第四紀学会会員)
作業員	小田切守正	柴　佐一郎
	埋橋程三	大久保富美子
	大野田　英	酒井とし子
	上島正延	酒井幸子

第3節　発掘調査の経過

日　　誌

11月9日

発掘機材を伊那市考古資料館より運搬し、現場へ搬入する。

11月10日

テントの設営をし、道路拡幅部分についてのトレンチ及びグリット設定の打ち合わせを行なう。

11月11日

調査地周辺の畑地において表面採集をする。縄文土器片、黒曜石片、石器などを採集することができた。

11月12日

調査地点の草刈りをし、トレンチ設定をする。午後よりA－1トレンチ掘りを開始する。縄文土器片、石器の出土がある。

11月13日

A－1トレンチの延長。

11月16日

ドットマップの作成。遺物取り上げ。

11月17日

住居址検出。第1号住居址とする。

11月18日

A－1トレンチの延長。住居址検出、第2号住居址とする。

11月19日

第2号住居址の掘り下げをし、第1号住居址の平面・断面実測及び写真撮影を行う。

11月24日

A－1トレンチのNo.37地点からの掘り下げを進める。

11月25日

八人塚古墳の実測とトレンチ部分の掘り下げを行う。

A－1トレンチの全体測量を開始する。

11月26日

A－1トレンチNo.37ポイントまでの断面実測を行う。

11月27日

No.36ポイント～No.34ポイントまでのトレンチ断面実測及び全体測量を行う。

A－1トレンチはNo.34ポイントまでとし、トレンチの長さは100m余りとなった。

午後調査地点について現場打ち合わせをし、次の調査地点をB地区No.24ポイントから東へ（B－1トレンチ）とすることに決定。

11月30日

A－1トレンチの調査終了。B－1トレンチを設定し、午後より表土の削土を開始する。

12月1日

B－1トレンチは開始地点より47mを設定し、掘り下げをする。

遺構及び遺物の出土はなく、断面実測・写真撮影をする。

12月2日

B－2トレンチの設定をし掘り下げを開始する。B－2トレンチからも遺構及び遺物の出土はなく、B－1トレンチ及びB－2トレンチの全体測量を行う。

12月3日

B－1トレンチ及びB－2トレンチの全体測量を終了。

12月4日

調査地点について現場打ち合わせをする。次の調査地点をC地区No.4ポイントから東へ（C－1トレンチ）とすることにする。

12月16日

C－1トレンチの設定をする。トレンチの長さは45mとなった。表土の削土を開始し、掘り下げを進めたが遺構及び遺物の出土はない。

12月17日

C－1トレンチの平面実測を行う。

12月18日

C－1トレンチの埋め戻しをし、C－1トレンチの調査終了。

発掘器材の整備をする。

1月

報告書作成のため整理作業をする。

2月

報告書作成

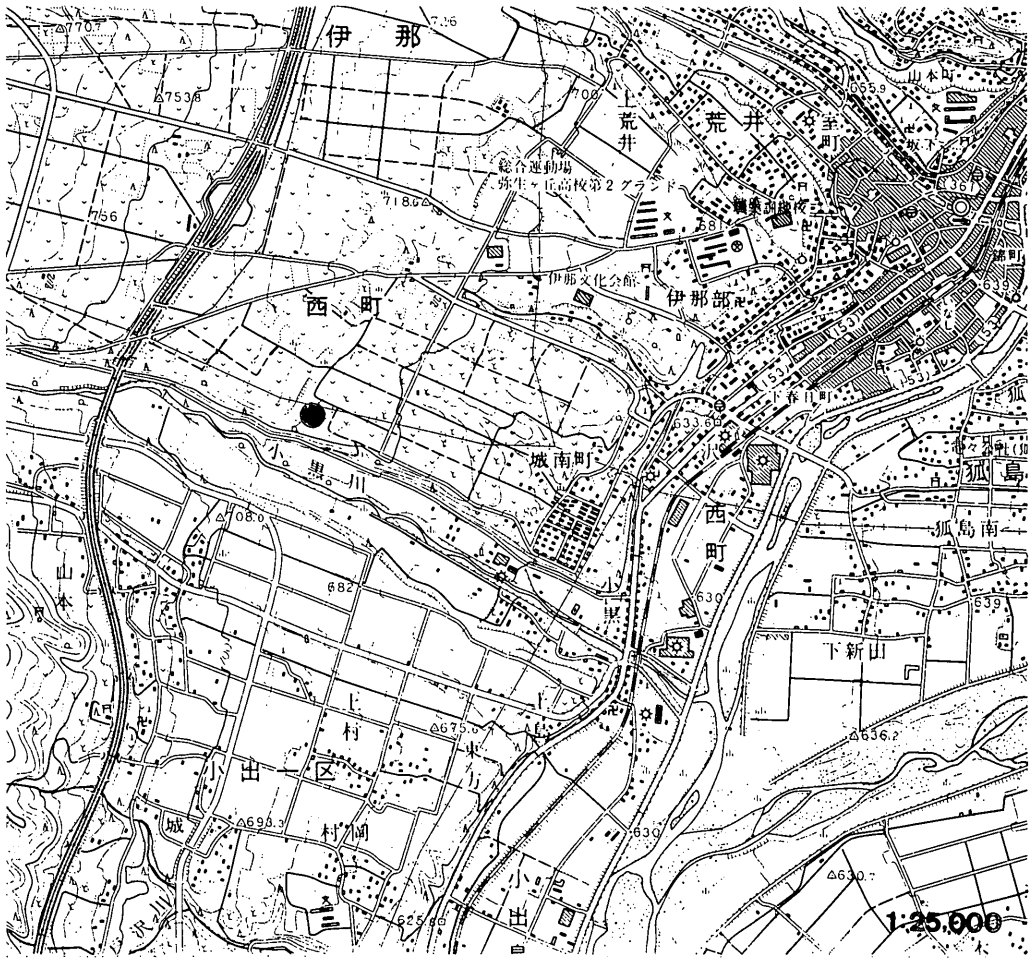
発掘調査に深いご理解とご協力をいただいた方々に心より感謝申し上げる次第であります。

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置

伊勢並遺跡は、長野県伊那市西町区小黒地籍にある。遺跡に至るには、ＪＲ飯田線伊那市駅前から伊那合同庁舎前を通り、青木町の交差点を左折する。交差点を左折し、400m程行き坂道を上りきると、右手に荒井神社があり、この三叉路を左折し西へ向かう。伊那中学校前を通り、Ｙ字路を左折すると左手に長野県伊那文化会館、右手に長野県伊那勤労者福祉センターがある。勤労者福祉センター・婦人の家の交差点を左折すると、Ｔ字路となる。ここから南側の畑地帯に遺跡が存在する。

遺跡は天竜川右岸、小黒川左岸の台地段丘上に広がる畑地帯に位置している。



第１図　遺跡の位置

第２節　地形及び地質

１　小黒川扇状地

伊那市の市街地の西方には小黒川扇状地がある。調査地の小黒原はこの扇状地の東半部にあたる。伊那市の竜西地域はいくつかの扇状地が並んでおり、南から小黒川扇状地・小沢川扇状地・大清水川扇状地・大泉川扇状地という順序に並んでいる。扇状地はそれぞれが特徴を持つものの、特に小黒川扇状地は異質である。

（１）小黒川扇状地と小沢川扇状地との区別

小黒川扇状地の南扇側部は大部分が権現山（1749m）の山地に接していて、山地と扇状地との区別は容易である。これに対し、北側は小沢川扇状地と接するため両扇状地の境界線を引くことは困難である。中央自動車道を掘り割った時、小黒原を横断する扇状地断面が見えたから、そのとき礫層を観察してあれば境界部を確認できたかも知れない。何故なら、小黒川扇状地礫層中には木曽駒花こう岩の礫が混じっていて区別ができる。今となっては不可能なので小黒原からますみヶ丘、さらに横山にかけて地表の形態を詳細に観察して、両扇状地の境界線を決定した。

西端部の山麓に接する横山では、境界が集落の位置である。これは扇面の等高線の並び方で明瞭に分けられる。ますみヶ丘から小黒原を通って西町に至る広々とした扇状地の上での境界の位置が微妙である。注意して等高線の配列を見ると、一見平坦そのものの扇面の上に一条の微低地が東西方向にのびている。伊那西小学校の校舎の南側を通り、小黒川パーキングの北側を抜け、西町教会の北側の谷に通じる谷線である。西町教会から東では春日城址公園の南側へのびる大きな谷へ通じている。このような方法で、小黒川扇状地と小沢川扇状地の外形を求めて第２図に示した。

（２）扇面の面積と集水域との関係

第２図から見て小黒川扇状地の面積は、小沢川扇状地より小さいことがわかる。第２図により方眼紙を用いて扇面の面積を求めると

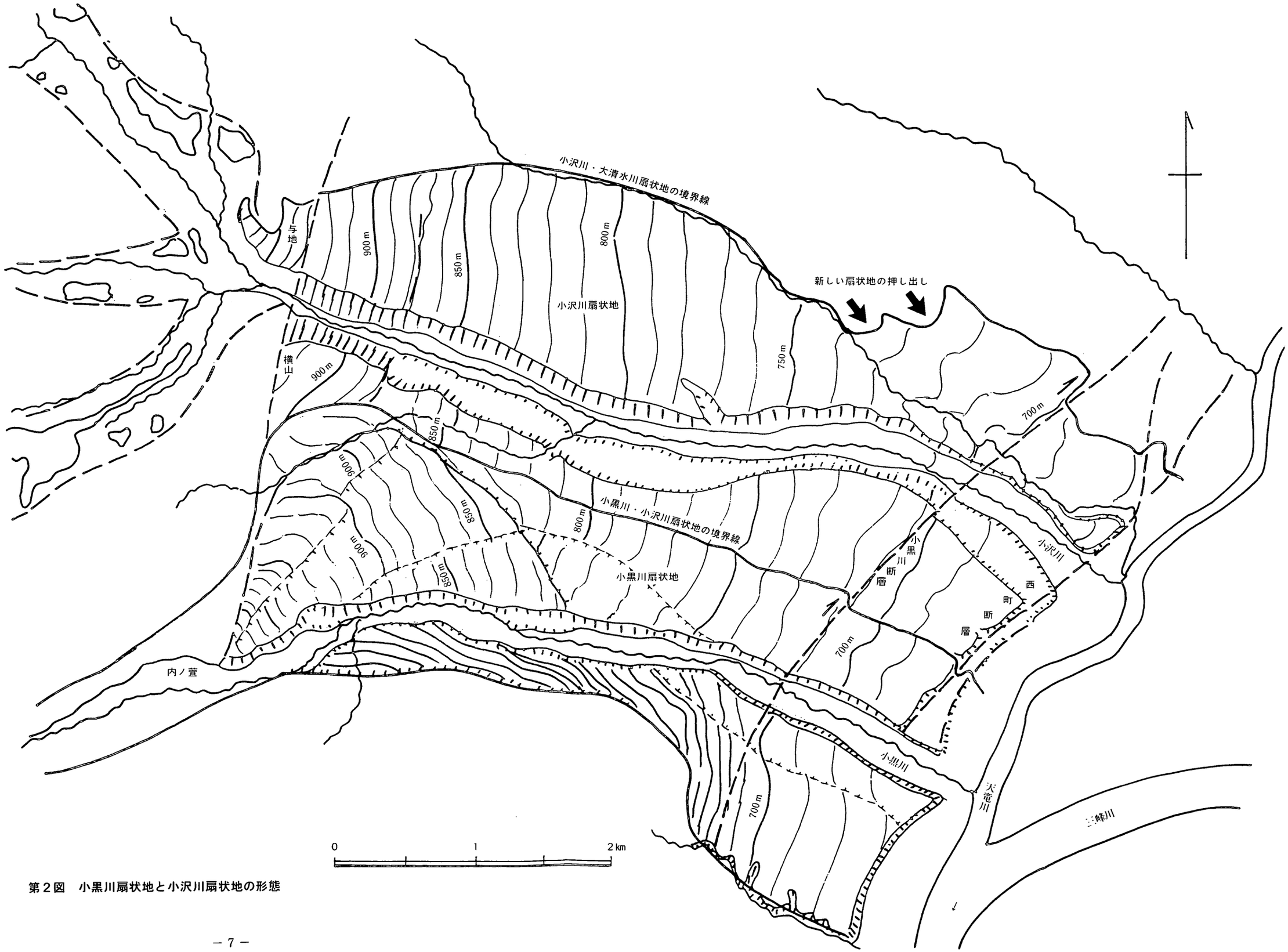
小黒川扇状地　　８．３㎢

小沢川扇状地　１２．５㎢

となり、小沢川扇状地の方が小黒川扇状地の1.5倍の広さを持つ。

さて、扇状地というのは扇面へ砂礫を供給するための集水域を持っている。集水域は扇頂部以上の斜面の部分にあたる。小黒川扇状地の集水域は将棊頭山（2730m）を最高点とし、将棊

本項については、畑地帯総合土地改良事業伊那西部地区小黒南原・伊勢並遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書（伊那市教育委員会1992）の第Ⅱ章第３節「地形及び地質」を補ったもので、基本的な資料の多くは前書による。



第２図　小黒川扇状地と小沢川扇状地の形態

頭山から権現山（1749m）へ続く尾根を南限とし、その尾根の北側斜面と、内の萱－大樽小屋登山路のある尾根の東側斜面とが集水域になっている。

これに対し、小沢川扇状地の集水域は横山－大樽小屋登山路を南限とし、権兵衛峠－経ヶ岳（2296m）の分水嶺から東側の斜面を集水域としている。両扇状地の集水域面積は次のようである。第２図同様に第３図を作成して集水域の面積を求めた。

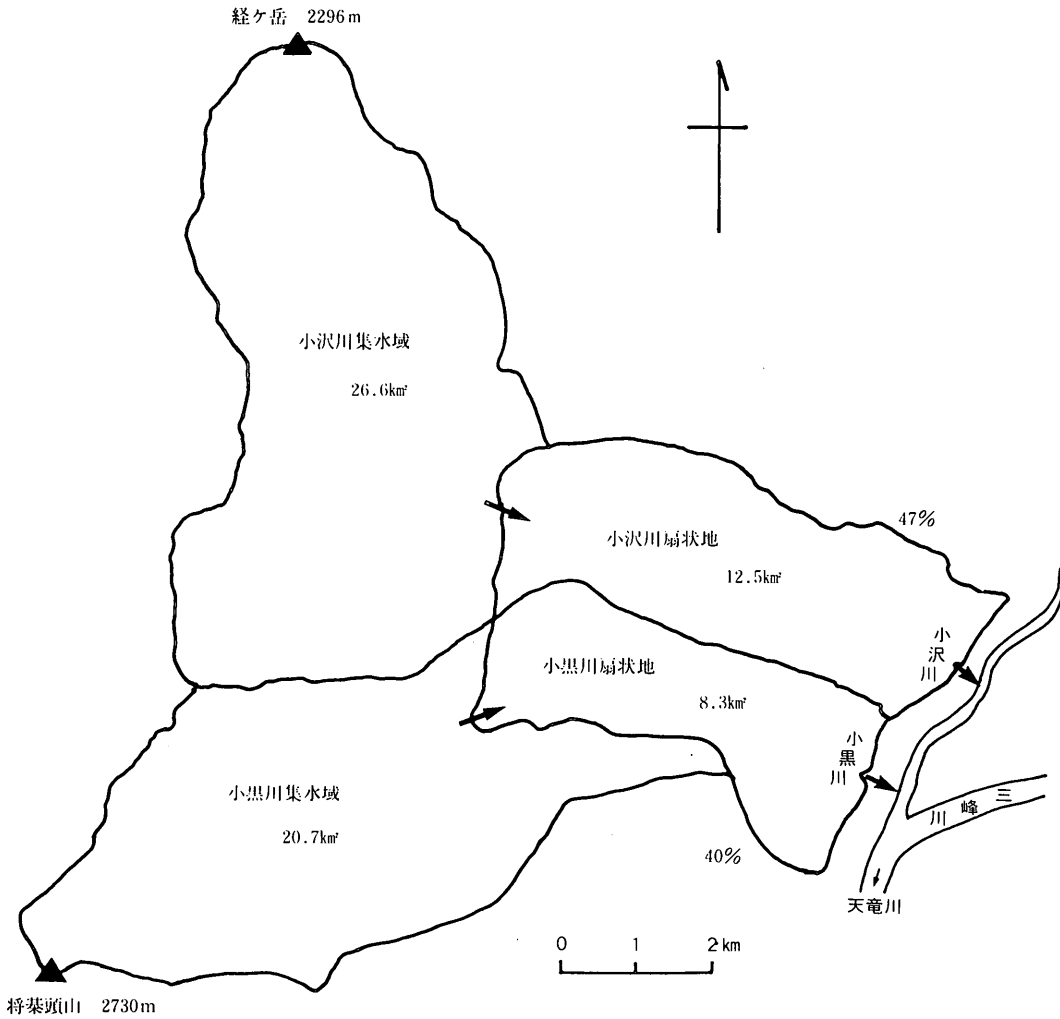
小黒川扇状地集水域面積　　２０．７㎢

小沢川扇状地集水域面積　　２６．６㎢

そこで、集水域面積に対して扇面面積の割合を求めると次のようである。

小黒川扇状地　　４０％

小沢川扇状地　　４７％



第３図　小黒川・小沢川の両扇状地と集水域の形と面積

この結果を比べてみると小黒川扇状地の方が扇面の発達が悪いことになる。小黒川が搬出した砂礫の量が少ないような結果である。砂礫の搬出量は集水域の面積だけでなく、集水域の条件にも関係する。小黒川の集水域には標高の高い将棊頭山までを含むわけで、起伏量や開析量が大きい。こうした条件であれば小黒川の砂礫供給量も大きいはずである。しかし、小黒川の扇面の面積比が小さくなったのはなぜだろうか。この疑問に対し検討したい。

（3）小黒川扇状地は小沢川扇状地より先行していた

小黒川の上流域では大樽小屋付近の約2100mくらいより上方から木曽駒花こう岩が露出している。したがって、扇状地礫層中に花こう岩礫が入っていれば小黒川から運び出されたものと判別できる。かつて、小沢川の上流の平沢付近において現河床の下より花こう岩礫が入っていたと報告されたことがある。このことは現在あらわれている礫層の下の礫層についても検討してみなければならない。

現在あらわれている礫層の大部分は伊那軽石層より上位のものを主としている。つまり、伊那軽石が降下した年代が約9万年前であるから、それより新しい礫層によって構成されている扇状地が第2図に示されたものである。第2図の扇状地の形は9万年前から2万年前くらいの間につくられ、その後は侵食されて現在のようになったものである。

一方、小黒川扇状地は、伊那軽石層降下以前から扇状地形成が始まっていた。これは、標高の高い将棊頭山一帯の高山域が最終亜間氷期から岩屑を生産し、砂礫を盆地内へ供給していたためである。このため現在の小黒川扇状地の範囲より北に張り出した形で初期の小黒川扇状地が広がっていたと推定できる。

現在の森林限界高度は将棊頭山から茶臼山にかけての標高2600m付近にある。ところが、小黒川扇状地の形成が活発化したのは伊那軽石層降下以降で8万年前ころからである。このころから最終氷期の前期寒冷期にはいり、日本の山地では森林限界が1600m低下したことが知られている。このとき、900～930mの標高をもつ横山付近まで森林限界が下がってきた。横山からますみヶ丘付近の堆積物には森林限界の降下を示す異常堆積構造が認められ、日本の他地域よりさらに低い、標高800mのますみヶ丘付近まで森林限界が低下したことを示している。

小黒川扇状地と小沢川扇状地はそれぞれの集水域が最終氷期の寒冷化にともなった周氷河作用で大量の岩屑生産がはじまったことに対応してつくられた。こうした変化は、標高の高い小黒川の集水域で先行し、初期段階で小黒川扇状地が現在より北側に広く張り出したものと想定される。

8万年前ころから、本格的な寒冷化が進行することにより、森林限界の低下が急速に拡大した。こうなってくると、小黒川も小沢川も、その全集水域が周氷河地域となる。集水域の面積の大きい小沢川の方が大量に岩屑が生産されるようになり、砂礫の供給量が増大して扇状地の面積を広げてきた。こうして、初めに拡大していた小黒川扇状地の北縁部は小沢川扇状地の礫

層の下に埋もれていき、現在のような両扇状地の境界線が決定されるに至ったのである。

2　小黒川扇状地の変形

第２図に小黒川・小沢川扇状地の形態を示してある。扇状地といえば一般的に河川が山地から盆地に出たところで半円錘形状の地形（扇形の地形）を呈するのが多い。しかし、当地域の扇状地はその趣が異なっている。これは伊那谷が構造性の盆地であって、断層運動と密接に関わりながら発達してきており、扇状地のでき方、その分布を決める要因、扇状地の変形など、断層と深く関わっているためである。

（１）小黒川断層による扇状地の変形

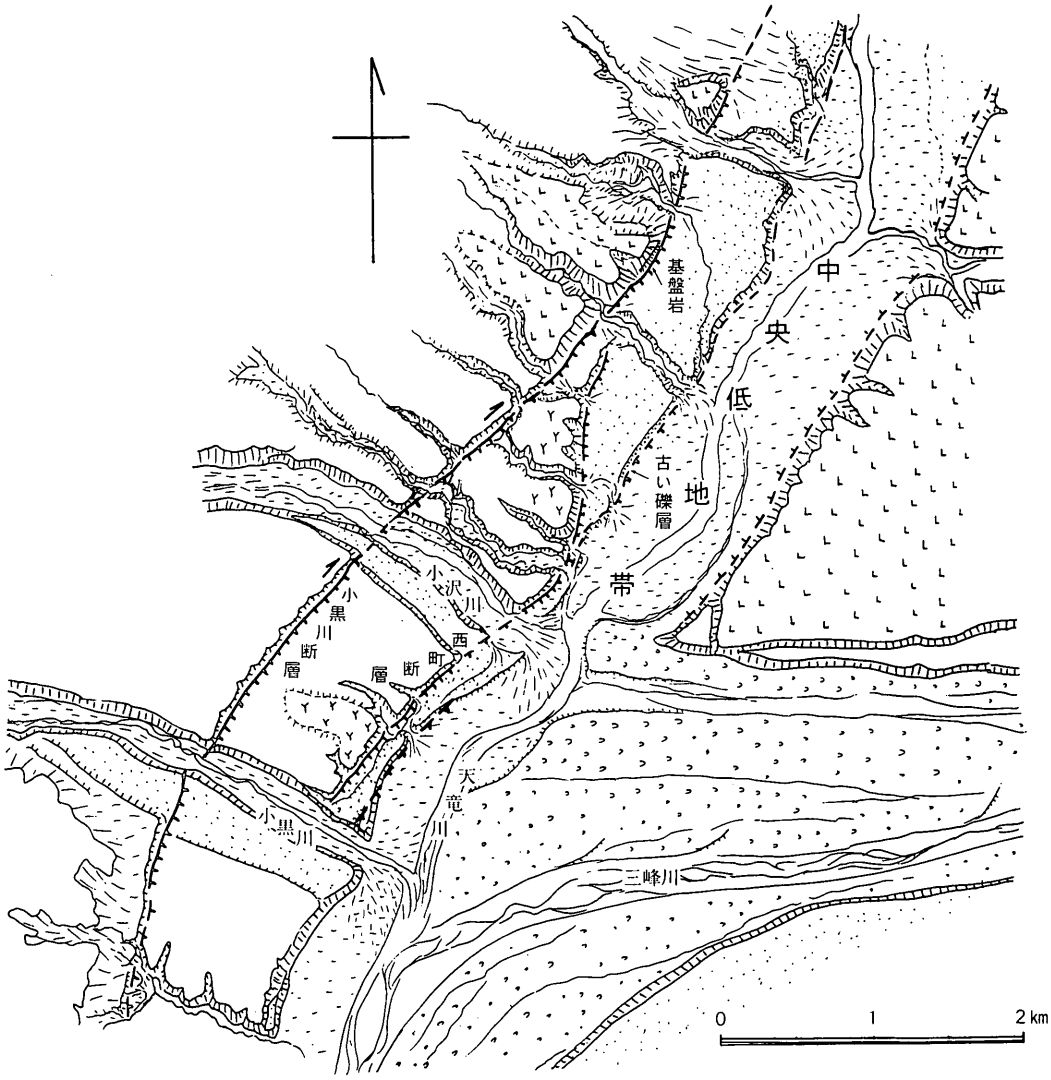
第２図において、小黒川扇状地と小沢川扇状地の境界線、及び小沢川扇状地と大清水川扇状地との境界線が鍵の手に鋭く屈曲している。扇端部から１kmほど西へ入ったところである。この屈曲部を連ねて小黒川断層が通っており、屈曲は小黒川断層による変位地形である。この屈曲のずれの向きから、小黒川断層が右横ずれ変位を起こしていることを示している。両屈曲部とも扇状地の境界線として特徴ある地形を示す。浅い谷ができているが、通常水は涸れている。あたかも首なし川のような谷をなしており、かつて相当に水が流れたような地形である。小黒川扇状地の場合この谷線は４kmにわたって追跡できる。

（２）扇状地末端部の変位地形について

小黒川扇状地は天竜川に面する扇端部が西町断層によって直線状に切られている。西町断層は小沢川を越え、北に延長し、南箕輪村に達している。伊那市の市街地のある天竜川べりの沖積低地は天竜川の侵食によってのみできたのではなく、西町断層によって生じた構造性の低地帯である。

伊那谷は盆地の中央部を天竜川が流れている。この低地帯は天竜川の侵食作用によって生じた谷ではない。断層を伴ってできた構造性の凹地である。したがって、特別に中央低地帯と呼ぶ。伊那市付近では竜西側の扇状地の末端部が中央低地帯によって切られ、直線状の配列を示している。こうした断層運動は現在まで続いている。その変位速度は大きくないが、小黒川や小沢川に沿った沖積面にも影響を与えている。

第４図に伊那市付近の活断層と中央低地帯を示した。天竜川に面した段丘地形の多くは、小黒川断層や西町断層によってできた構造性の段丘であることを示している。断層は、西側が上り、東側が落ちる動きを持っている。このため、断層より西側に台地状の段丘地形ができる。扇状地の末端部でこうした変位が起こるため、小黒川扇状地も小沢川扇状地も扇端部が一番早く離水し、段丘化する。この証拠として、扇端部に三角形状の台地が生じ、この上に古いテフ



断層崖・段丘崖にかこまれた段丘状地形

断層崖（撓曲崖）をつくる活断層の推定部分

断層崖（撓曲崖）をつくる活断層。短線の向きが崖下を示す

支流の押し出しと中央低地帯の低湿地

三峰川が現在つくりつつある扇状地

２万年前前後の低位段丘

６～４万年前にできた扇状地や段丘

三岳スコリア（６、５万年前）を風成でのせている変位丘陵

御嶽第Ｉ軽石層から風成テフラ層をのせている変位丘陵

第４図　伊那市付近の活断層分布と中央低地帯

ラ層が風成層としてのっかってくる。こうした地形を変位丘陵と呼ぶ。

変位丘陵には古いものと新しいものとがある。古い変位丘陵上には、御嶽第Ⅰ軽石層から風成テフラ層としてのっている。御嶽第Ⅰ軽石層は約10万年前に活動した噴出物であるから、古い変位丘陵は10万年前より前にできていたことを示す。南箕輪村神子柴の変位丘陵がそれにあたる。

小黒川扇状地の末端部、城南町西側の変位丘陵は新しい変位丘陵である。この上には、三岳スコリア層から上のテフラ層が風成でのってくる。三岳スコリア層は約6.5万年前の噴出物であるから、それより前に離水したことを示している。

変位丘陵のまわりの扇状地上には新しいテフラ層しか見られない。小黒川扇状地の大部分はさらにずっと後まで扇状地形成が続いていた。扇状地上にみられる風成テフラ層は御嶽新期テフラ層の最上部のものであることから、６万年前から４万年前ころの期間を通じてだんだんに離水してきたことを示している。小黒川扇状地をはじめとし、伊那市周辺の竜西側扇状地の大部分は６～４万年前、一部では３万年前にかけてだんだんに離水区域が拡大してきたといえよう。

小黒川扇状地の先端部に城南町の低位段丘がくっついている。この面上にはテフラ層がなく、姶良Ｔｎ火山灰をのせている。したがって、この低位段丘は２万数千年前頃まで天竜川の氾濫面であった。当時は最終氷期の最寒冷期にあたるため、山地からの砂礫供給量が増大し、中央低地帯は一時的に広く埋積された。このときの氾濫面にあたる。

現在の低位段丘が段丘となったのは２万年前より後のできごとである。後氷期にはいり、気候が温暖化に向かうにつれ、天竜川や支流の侵食が復活して、現在の沖積低地が形成された。

第３節　歴史的環境

伊那市西町地区は多くの主要な遺跡の密集している地帯である。特に小黒南原・伊勢並遺跡は八人塚・狐塚の古墳群があるところでもあり、旧石器の遺跡としても注目しなければならない地帯である。小黒南原・伊勢並の両遺跡を中心とした周辺の遺跡を概観してみると縄文時代では次のようである。

ますみが丘遺跡は、縄文時代中期。

赤坂遺跡では、縄文時代前期木島式土器が出土しており、その他縄文時代中期の遺物も出土している。

上ノ山遺跡からは縄文時代中期中葉の土器が発見されており、平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器などが出土している。

伊勢並遺跡からは、先土器が発見されており、縄文時代早期の格子目の押型文土器や斜縄文土器、縄文時代早期末の土器、縄文時代前期初頭の木島式土器、縄文時代中期後葉の住居址一軒も発見されている。

山の神遺跡からは縄文時代早期の土器、縄文時代中期後葉の遺物と土坑などと、弥生時代の土器、平安時代の遺物など中世の天目茶碗も出土した複合遺跡である。

小黒南原遺跡からは表面採集によるものであるが、縄文時代中期初頭型式の遺物や縄文時代中期後葉の遺物が発見されている。

今回調査が行われた地域より北方にある伊那市総合運動場の西隣には富士塚がある。この富士塚は江戸時代中期頃のものといわれており、富士信仰の裏付け資料となっている。

古墳関係では狐塚北古墳・狐塚南古墳・八人塚古墳など６世紀代の群集古墳が分布している。狐塚南古墳は、昭和50年に土取り工事のため発掘調査された。規模は径14m高さ2.1mで横穴式石室の６世紀代後半の古墳である。現在は一部に土盛りをしてある。狐塚北古墳は横穴式石室の古墳で狐塚南古墳と同じ６世紀代後半頃の古墳である。八人塚古墳は小黒川の左岸段丘上に所在する古墳であるが、伊那市史歴史編のなかでは２基の八人塚古墳が掲載されておりひとつについては消滅古墳とされている。今回調査した古墳は盗掘に会い石室に使用された石が露出しており保存状態はよくない。この２基の八人塚古墳については今後研究調査していきたいと考えている。

延喜の東山道がこの伊勢並遺跡地域の中の春日街道筋を通っていたのではないかという説があり、前回の調査において一部通過地点と思われる箇所を調査してみた。結果はトレンチ断面において踏み固められたと思われる箇所は認められたが、関係する遺物の出土があるまでには至らなかった。

今回の調査地区周辺には、上記のように先土器時代から中世・近世時代までの広い年代にわたる遺跡が存在しており、今後の調査研究に期待がかかる地域である。

本遺跡の周辺には、縄文時代から近世まで各時代の遺跡が分布しており、発掘調査で明らかにされている遺跡もある。各遺跡の概略について列挙すると、以下のとおりである。

1　ますみが丘遺跡

（縄文）中期土器・石鏃・打石斧

2　赤坂遺跡　　（昭48年発掘）

（縄文）中期土坑、前期・中期土器・石鏃・打石斧・石匙・削器

3　富士塚

（近世）塚

4　上ノ山遺跡　　（昭43・平４年発掘）

（縄文）中期中葉～後葉

（奈・平）土師器・須恵器・灰釉陶器

5　伊勢並遺跡　　（昭38・平４年発掘）

（先土器）尖頭器・剥片石器

（縄文）中期竪穴住居１、前期・中期土器・石鏃・石槍・爪形掻器・打石斧・片刃石斧・磨石・敲石・石匙・石錘・滑石製有孔玉

（弥生）中期土器・有孔磨石鏃・石包丁

（平安）土師器・須恵器・灰釉陶器・青銅鏡

6　狐塚北古墳

円墳　　径14.40m　高3.00m　横穴式石室

7　狐塚南古墳　　（昭50年発掘）

円墳　　径14.00m　高2.10m　横穴式石室

鉄鏃・刀子・轡・金環・玉・杏葉・土師器・須恵器

8　八人塚古墳

円墳　　径11.00 m　高1.60m

9　山の神遺跡　　（昭50年発掘）

（縄文）土坑、早期・中期土器・打石斧・磨石斧・玉・土錘

（弥生）土器

（平安）土師器・須恵器・灰釉陶器

（中世）陶器（天目）

10　小黒南原遺跡　（平３年発掘）

（縄文）中期土器・石鏃・打石斧・磨石斧・石匙・土錘・円石

11　ウグイス原遺跡

（平安）土師器

12　山本田代遺跡　（昭48年発掘）

（縄文）中期初頭・後期土器・打石斧・磨石斧

（平安）竪穴住居６・小竪穴、土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄鏃・刀子・鈦具・鉄滓

（中世）土鍋・陶器（黄瀬戸・天目）

（近世）陶器・青銅製品

13　城平上遺跡　（昭47年発掘）

（縄文）中期土器　（平安）土師器・須恵器

14　城平遺跡　（昭47年発掘）

（縄文）竪穴住居１、中期末・後期・晩期土器・磨石・石棒

（平安）竪穴住居８、土師器　・須恵器、灰釉陶器・砥石・刀子

（中世）地下倉３・小竪穴２・墓坑４、内耳土器・陶器（黄瀬戸・天目・備前）・青磁・石臼・砥石・刀子・ピンセット状鉄製品・釘・火打金具・古銭

15　宮林遺跡

（縄文）中期土器・打石斧・焼石

16　北条遺跡　（昭49年発掘）

（縄文）中期竪穴住居８・中期土坑４・配石１、勝坂式・加曽利Ｅ式・石鏃・打石斧・磨斧凹石・磨石斧・剥片石器・砥石・棒状石器・石錘

（奈良）竪穴住居１、土師器・須恵器・陶硯

（平安）竪穴住居２、土師器・須恵器・灰釉陶器

17　山本遺跡

（縄文）中・後期土器・打石斧　（弥生）土器

18　上島下遺跡

（縄文）前期土器

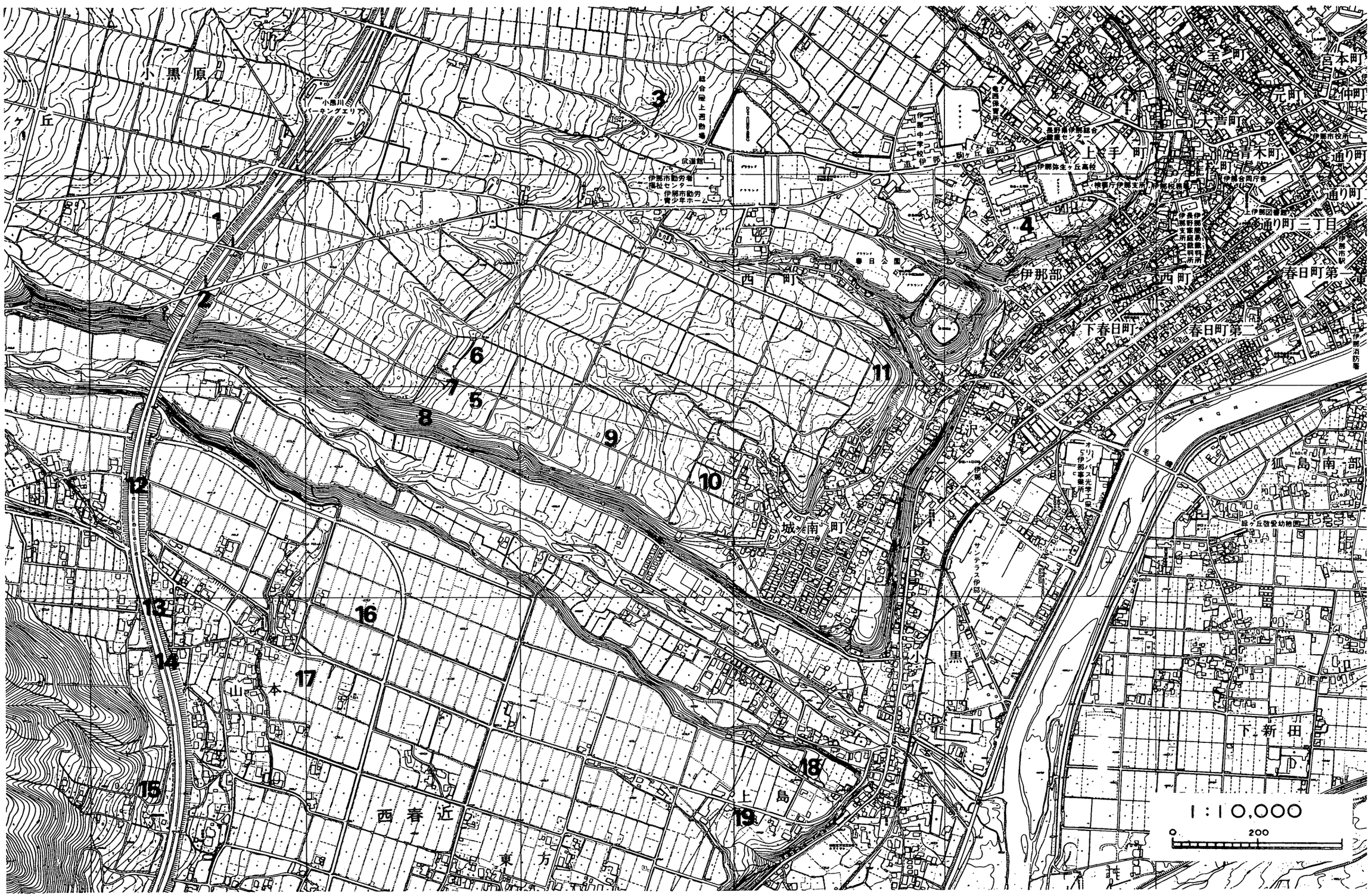
19　上島遺跡　（昭48年発掘）

（先土器）剥片

（縄文）前期竪穴住居２・小竪穴２、前期土器・打石斧・磨石・敲石・石皿・礫器・横刃形石器・棒状石器

（平安）竪穴住居１・小竪穴１、土師器・須恵器・灰釉陶器

（早川）



第５図　周辺の遺跡分布図

第６図　調査範囲設定図

第Ⅲ章　調　　査

第１節　調査の概要

平成３年度に実施した調査では、遺構の検出がなく遺物の出土も極めて少数であり、調査地点が遺跡の北端部にあたるのではないかと思われたが、今回の発掘調査地点は、昨年度調査した地点から南方の小黒川を望む位置において実施され、遺跡の南端部にあたる位置である。

畑地帯総合土地改良事業の事業内容は、道路の拡幅及び畑地灌漑用パイプの埋設であり、調査は現況道路に沿って、幅２ｍのトレンチを設定し実施した。

今回の調査においては、調査範囲をＡ・Ｂ・Ｃ地区とし、

Ａ地区…Ａ－１トレンチ（延長103ｍ）

Ｂ地区…Ｂ－１（延長47ｍ）・Ｂ－２トレンチ（延長45ｍ）

Ｃ地区…Ｃ－１トレンチ（延長45ｍ）

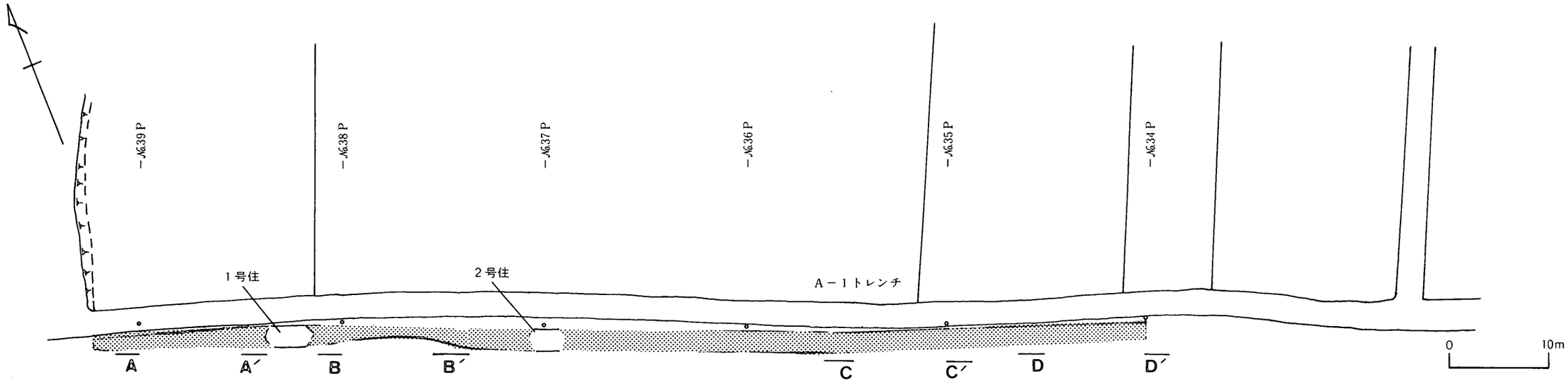
を設定し、調査を実施した。

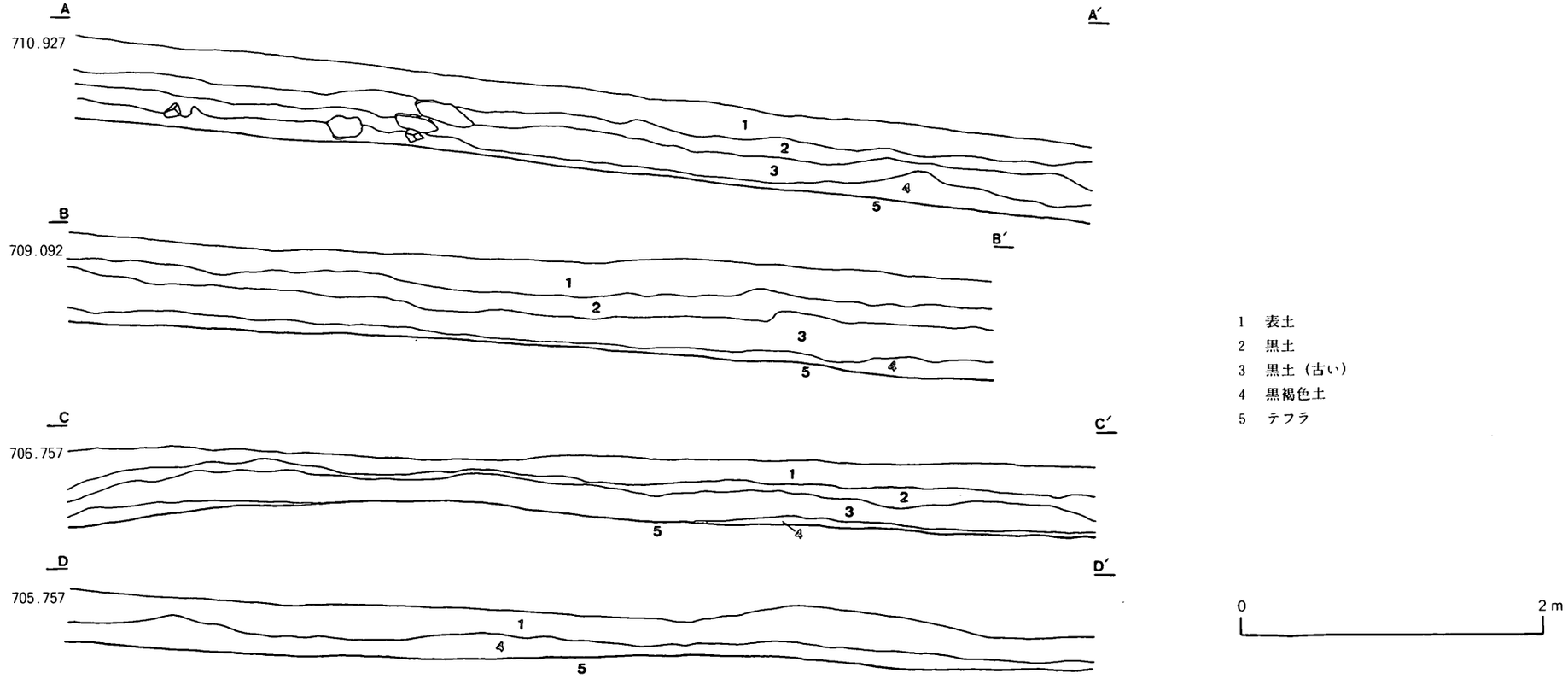
耕土は耕作によりかく乱されていることから重機により除土を行ったが、近年の耕作機械の大型化により覆土のかく乱がテフラ層まで及んでいる箇所もあった。

Ａ地区においてはまず、表面採集による調査を行ったが、Ａ－１トレンチの調査開始地点から北方へ約100ｍ四方範囲の畑地においては遺物が数多く認められ、畑地の作物の関係から十分に確認できない箇所もあったが、小黒川断層により二分された段丘の境付近に数多くの遺物が認められた。また段丘の上段においても遺物が数多く認められた。

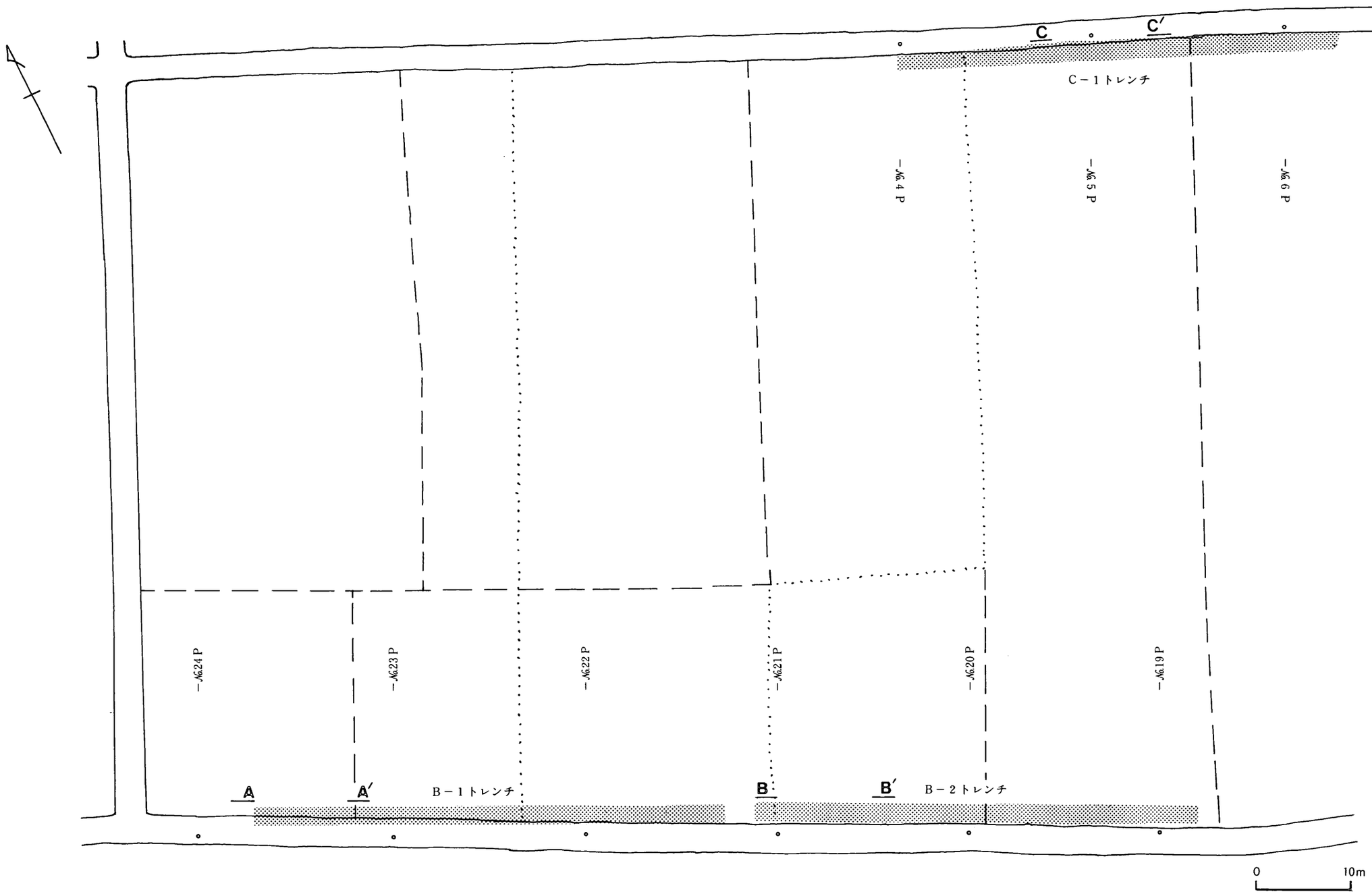
Ａ－１トレンチにおいては住居址が検出され、今回のＡ地区調査地点が遺跡の南限にあたり、伊勢並遺跡は、この小黒川断層により二分された段丘の境を中心に上段及び下段に広がっていると思われる。

Ｂ地区及びＣ地区においては、遺構の検出がなく遺物の出土も見られなかったが、Ｃ地区においては表面採集による遺物の確認がみられた。　（早川）

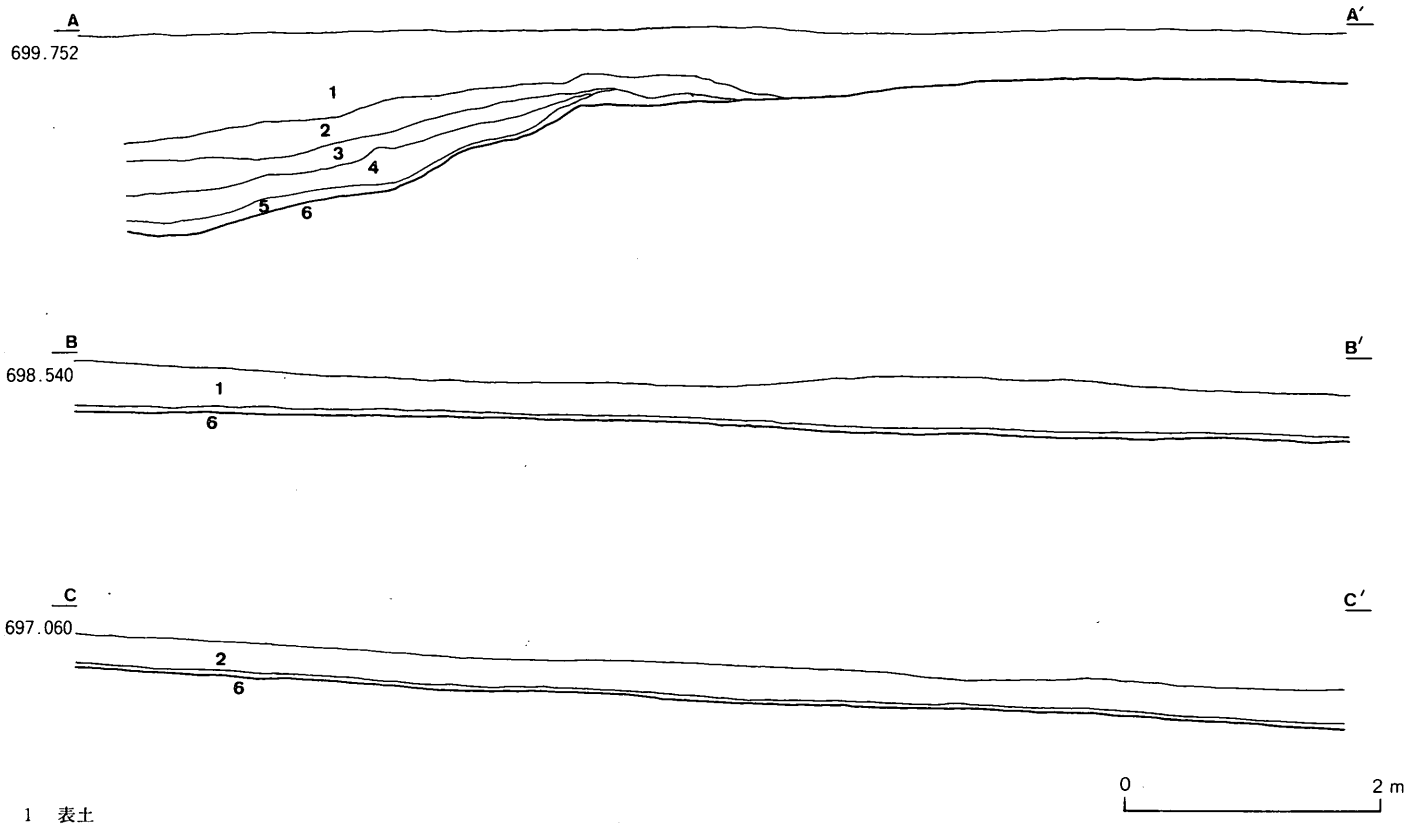

№39 P
№38 P
№37 P
№36 P
№35 P
№34 P
1号住
2号住
A－1トレンチ
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
0
10m


A
A′
710.927
B
B′
709.092
C
C′
706.757
D
D′
705.757
1
2
3
4
5
1 表土
2 黒土
3 黒土（古い）
4 黒褐色土
5 テフラ
0
2m

第７図　Ａ地区調査図


C
C′
C－1トレンチ
No.4 P
No.5 P
No.6 P
No.24 P
No.23 P
No.22 P
No.21 P
No.20 P
No.19 P
A
A′
B－1トレンチ
B
B′
B－2トレンチ
0
10m

第８図　Ｂ・Ｃ地区調査図



1　表土
2　黒褐色土
3　黒土
4　赤褐色土
5　テフラ混り赤褐色土
6　テフラ

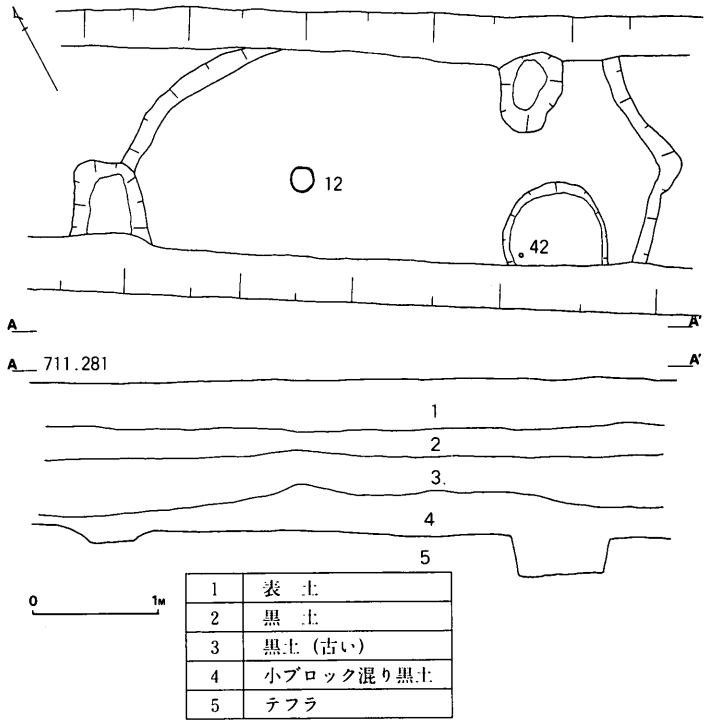
第９図　Ｂ・Ｃ地区トレンチ断面図

第２節　遺構と遺物

第１号住居址

遺構（第10図・図版１）

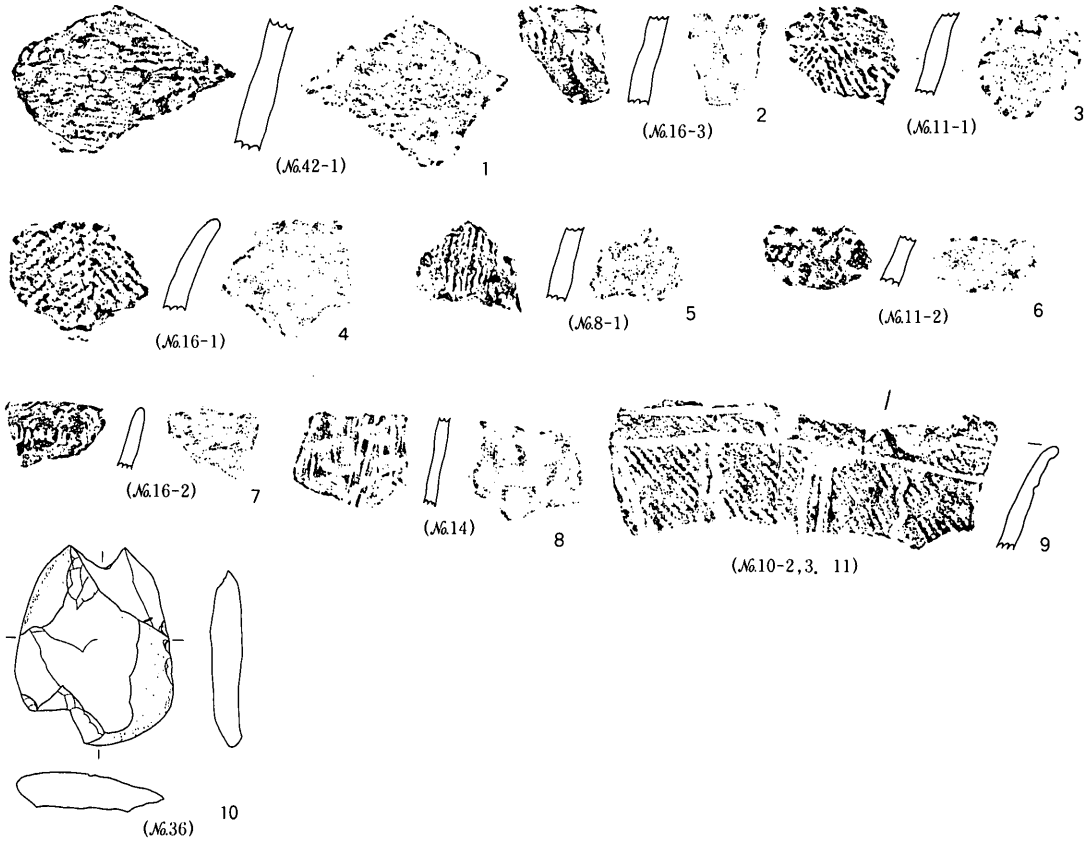
本住居址は、Ａ地区のＡ－１トレンチ基点より東に約20ｍの地点に発見された住居址である。住居址の規模は、計画された道路の調査トレンチに検出された遺構であるため、南側は用地外で制限され、北側は道路のため調査が不可能な現状でのなかで調査が行われた。このため、住居址規模は東西4.27ｍを測れたが、南北は2.27ｍだけの調査であった。住居址の深さは現地表面から1.20ｍと深かった。住居址の形状は、不整円形ではないかと考えられる。床面はテフラに30cm程堀込んで設けられ、全面堅く踏み固められていた。柱穴と考えられるＰ11は、東西50cm、南北60cmの楕円形、深さ32cm。この柱穴址より1.20ｍに第１号土坑が検出された。この土坑は南側が用地外であるため調査はできなかった。土坑の規模東西82cmを測る、深さ約30cmのたらい形の土坑である。２号土坑は西壁に接して設けられた遺構で、東西27cmを測るが、南側は用地外で調査はできなかった。深さは22cm、楕円形の土坑である。埋甕、住居址内では中央やや西側に検出された。



第10図　第１号住居址実測図

遺物（第11図・図版６）

１は厚手で繊維を混入した深鉢形、表面に貝殻条痕、裏面には条痕が見られない茅山上層式土器。２は口縁部に横位に篦状具による連続刺突文が施され、わずかに繊維を含んだ早末～前期初頭の土器。３は繊維を含み羽状縄文が施された、花積下層式に併行すると考えられる土器。４は繊維を含み羽状縄文が施された、前期前葉に比定される土器と思われる。５は繊維を混入し、絡縄体圧痕文が施された、早期末葉に比定される土器と考えられる。６は無文で繊維を含んだ早期末葉と考えられる土器。７は繊維を含み口縁部に横位連続刺突文が施された茅山上層に比定されると思われる土器。８は薄手指痕文土器で、細い粘土紐をひらたくはりつけ隆帯文とし、その上に貝殻条痕を施した宮の原式に比定される土器。９は地文に斜縄文が施され、縦位に篦状器具蛇行沈線文を垂下させた加曽利Ⅱ様式土器。10は石錘で緑色岩。　（早川）

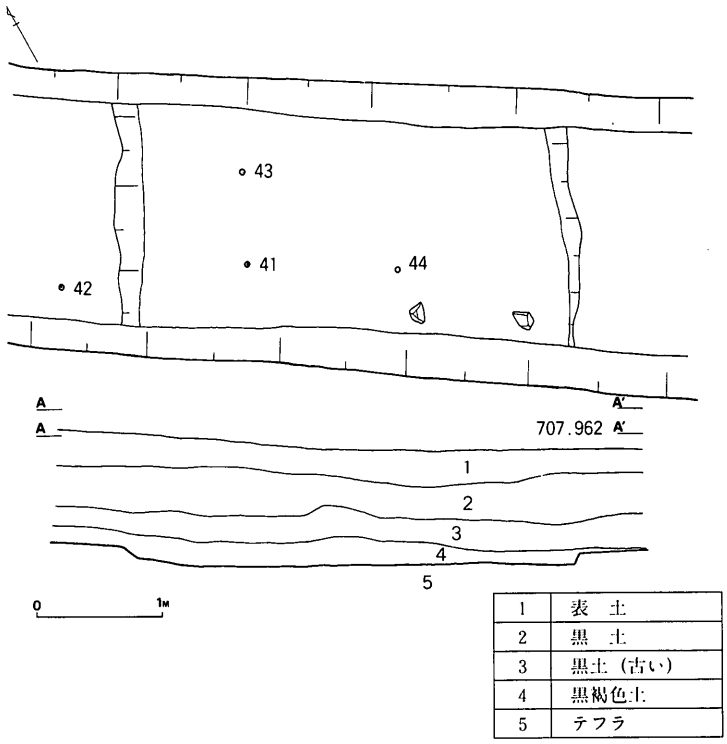


第11図　第１号住居址出土遺物拓影と石器実測図1～10（１：３）

第２号住居址

遺構（第12図・図版１）

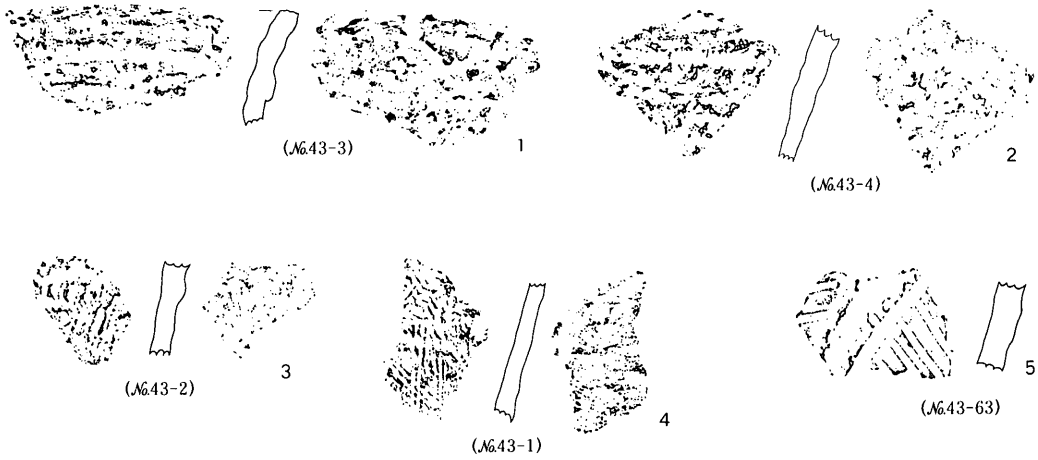
本址は、Ａ－１トレンチ西側基点より東に45ｍ地点に検出された住居址である。住居址は南は用地外・北側は道路で、調査拡大ができなかった。調査できた部分では、東西3.66ｍを測る。床面は一部に堅い所が認められたが全体的にはやや軟らかい床面である。今回の調査では柱穴や炉址は検出されなかった。また、床面上には径15cm大の花崗岩の自然石二個が検出された。



第12図　第２号住居址実測図

遺物（第13図・図版７）

１は繊維を含んだ深鉢形土器の口縁部の破片で、口縁に隆帯を横位にめぐらし、隆帯の凹部に櫛歯状具で連続施文した土器である。また、口唇にも同じ施文具で連続に施文している。入海Ⅰ式に比定されると考えられる土器。２は１と同個体の土器。３は１・２と同型式の土器と考えられるもの。４は繊維を含んだ条痕文系土器で茅山上層式。５は隆帯と平行沈線文が施された縄文中期後葉の曽利Ⅲ式に併行する土器と考えられる。（早川）



第13図　第２号住居址出土遺物拓影1～5（１：３）

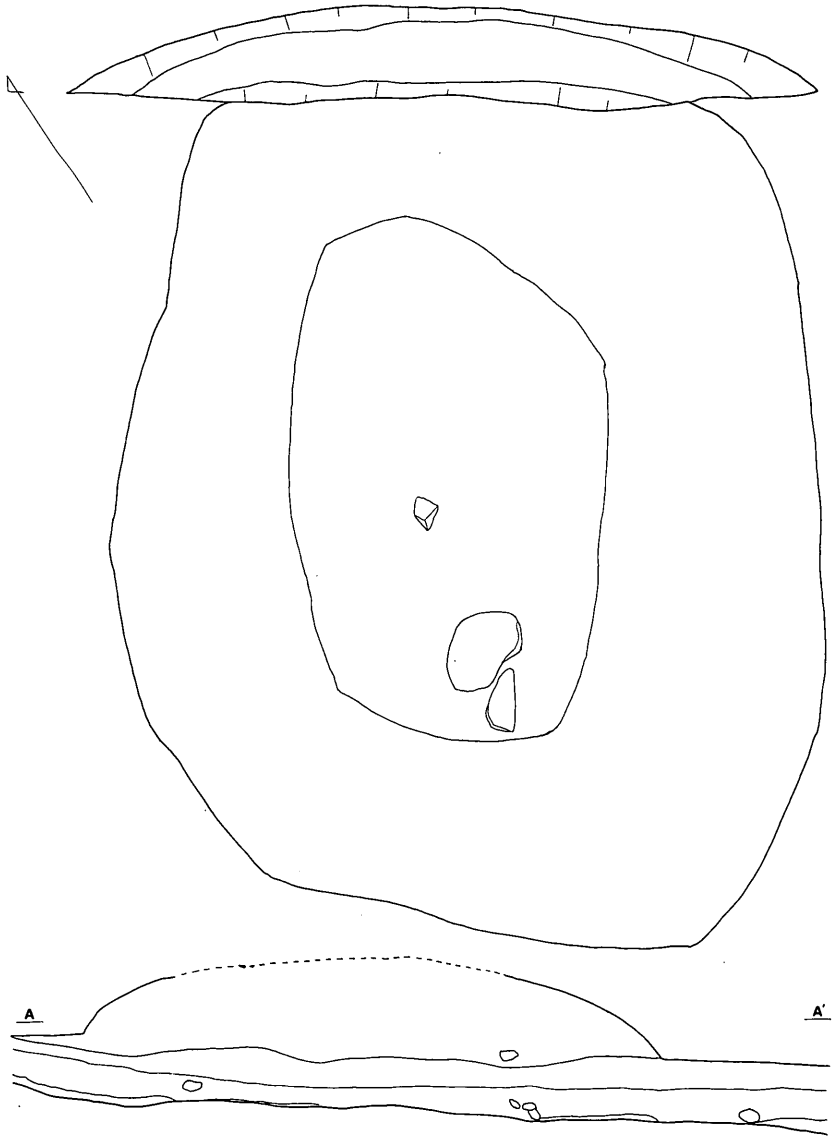
八人塚古墳の調査（第14図・図版２）

今回の調査は、八人塚古墳の周溝の北端部が計画された道跡敷になるところから調査が実施されたのである。調査された範囲は東西11m巾2.0m、深さ1.0～1.3m、周溝の底部の巾は約1.0mの周溝であることを確認することができた。遺構内からは遺物は発見されなかった。

この八人塚古墳は、昭和16年10月考古学雑誌第31巻10号に考古学の研究者であった塩原傳氏が報告している。報告によると、古墳の規模は東西13m、南北15m、高さ1.4mの墳丘で、石室は中央に設けられ、その規模は南北6.0m、巾1.2m、高さ1.2m、全面に敷石を施し、羨道・玄室を備えた横穴式石室で西側２箇所に１mほどの側室と思われるものを備えていた。石室の天井石は調査時に取り去られてしまったようである。

出土遺物は、遺骨・直刀二・刀子二・鉄槍・鉄鏃・管玉二・小玉二・鐸が出土したという。

（早川）



第14図　八人塚古墳実測図

A－1トレンチ出土遺物（第15図・図版6・10）

1は繊維を含み、表裏に貝殻条痕文が施された茅山下層式土器。2は繊維を含み、絡状体圧痕文の入海Ⅰ式に比定される土器。3は繊維が混入し、篦状器具で連続刺突した茅山上層式に比定されると思われる土器。4は無文で繊維を含んだ早末の土器と考えられる土器。5は繊維を少量含んだ無文土器、縄文前期前半に併行されると思われる土器。6は縄文地に縦位に隆帯を付け、更に指先で隆帯の頭が尖るまでなで上げた深鉢形土器である。隆帯と隆帯の間を蛇行沈線文が施されている。加曽利・曽利系に見られない土器。7は口縁部を横へはしる渦巻文の破片と考えられる曽利Ⅲ式Aに比定される土器。8は無文地に篦状器具で平行沈線文が施された曽利系Ⅳ期と考えられる土器。9は綾杉の沈線文が施された曽利Ⅳ式に比定される土器。10は縄文地に蛇行沈線文が施された縄文後期後葉に併行すると考えらるる土器。11は口縁部が内湾し口頸部に楕円の区画文と細かい縄文が施された縄文後期の土器。12は横刃、緑色岩。
13は横刃、緑色岩。14は磨製石斧、緑色岩。15は敲打器（磨製）。

A－1トレンチ出土遺物（図版8）

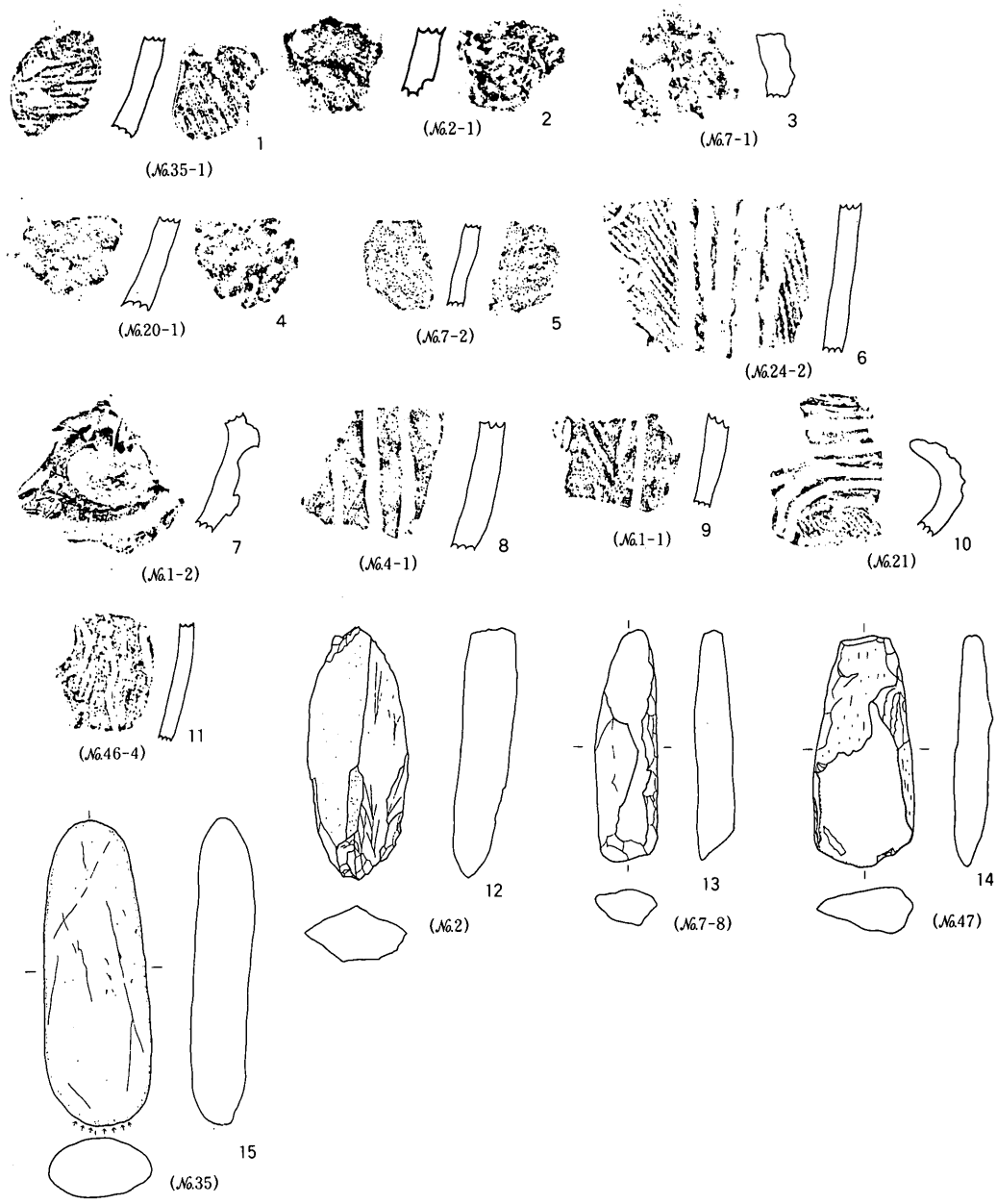
31・39・40は隆帯による渦巻文と沈線文の深鉢方土器である。唐草文系Ⅱ段階に比定される土器。32は唐草文系Ⅱ段階の渦巻文を配した深鉢形土器の把手である。
33・34は、口縁部が無文で口頸部を隆帯で区画し平行沈線を縦位に引いた文様の曽利Ⅱ式に比定される土器。35・36は沈線と隆帯の渦巻文が施された唐草文系Ⅱ段階の土器。37は隆帯文と沈線による綾杉文土器で、唐草系Ⅱ段階のものと考えられる。38は隆帯と平行沈線の曽利系ⅢBの土器。41は沈線の綾杉文土器。曽利Ⅳに併行する土器。42は渦巻文と粘土紐による唐草文系Ⅱ段階の土器。43・44は、無文の深鉢形、曽利Ⅱ式に比定される土器。

表面採集遺物（図版9）

45は無文の繊維土器、早期末と考えられる。46は繊維を含んだ無文土器、早期末と思われる。47は縄文と無文の部分がある中期後葉の土器。48は薄手無文で指痕文土器。縄文前期初頭東海系。49は薄手指痕文土器で表面に平たい粘土紐をはりつけ、その上に条痕を施した早期末の土器。50は薄手無文の指痕文土器。前期初頭東海系土器。51は薄手無文土器。早期末から前期初頭。52は薄手無文手痕文土器。前期初頭と思われる。53は中厚手指痕の無文土器、中越式土器に併行する土器。54は薄手無文の指痕文土器、前期初頭に位置するもの。55は無文の口縁部破片で、口縁内側に横位に櫛目文が施された土器。時期不明。56は無文薄手土器、縄文前期初頭に比定される土器と思われる。57は無文の中厚手土器、縄文前期初頭の土器。58は表面が削られた土器であるが、裏面に指痕が見られる。縄文前期初頭の土器。59は無文土器、平安時代か。60は灰釉陶器、猿投産、折戸56期。61は自然に釉の須恵器、平安時代。62は灰釉の燈明皿、江戸時代。63は鉄釉の燈明皿、江戸時代。

その他出土遺物（図版10）

64は石錘。65は打製石斧。66は横刃。67は磨製石斧。68は敲打器。　（早川）



第15図　A－1トレンチ出土遺物拓影と石器実測図1～15（1：3）

表1　　出土遺物一覧

整理番号	遺物No.	出土場所	種別									実測図No.	図版No.	備考
			縄文					古	奈・平	中世	近世			
			早	前	中	後	晩							
1	1- 1	A-1トレンチ				○						15- 9	6-18	後葉
2	1- 2	〃				○						15- 7	6-16	〃
3	1- 3	〃				○								〃
4	1- 4	〃				○								〃
5	1- 5	〃				○								〃
6	1- 6	〃				○								〃
7	1- 7	〃												黒曜石片
8	2- 1	〃	○									15- 2	6-11	
9	2- 2	〃			○									後葉
10	2- 3	〃			○									〃
11	2- 4	〃			○									〃
12	2- 5	〃			○									〃
13	2- 6	〃										15-12	10-65	打石斧
14	3- 1	〃			○									後葉
15	4- 1	〃			○							15- 8	6-17	後葉
16	4- 2	〃			○									〃
17	6- 1	〃			○									後葉
18	6- 2	〃			○									〃
19	6- 3	〃			○									〃
20	7- 1	〃	○									15- 3	6-12	末
21	7- 2	〃		○								15- 5	6-14	
22	7- 3	〃			○									
23	7- 4	〃			○									
24	7- 5	〃			○									
25	7- 6	〃						○						土師器
26	7- 7	〃												黒曜石片
27	7- 8	〃										15-13	10-66	ナイフ型石器
28	8- 1	1号住	○									11- 5	6- 5	末
29	8- 2	1号住			○									後葉
30	8- 3	1号住			○									〃
31	8- 4	1号住			○									後葉
32	8- 5	1号住						○						土師器
33	8- 6	1号住						○						
34	8- 7	1号住												黒曜石片
35	8- 8	1号住												黒曜石片
36	9- 1	1号住			○									後葉
37	10- 1	1号住	○											末
38	10- 2	1号住			○							11- 9	6- 9	後葉
39	10- 3	1号住			○							11- 9	6- 9	〃
40	10- 4	1号住			○									〃
41	11- 1	1号住	○									11- 3	6- 3	末
42	11- 2	1号住	○									11- 6	6- 6	〃
43	11- 3	1号住			○									後葉
44	11- 4	1号住			○									〃
45	11- 5	1号住			○									〃
46	11- 6	1号住			○									〃
47	11- 7	1号住			○									〃
48	11- 8	1号住			○									〃
49	11- 9	1号住			○									〃
50	11-10	1号住			○									〃
51	11-11	1号住			○									〃
52	11-12	1号住			○									〃
53	11-13	1号住			○									〃
54	11-14	1号住						○						土師器
55	11-15	1号住												敲打器
56	11-16	1号住												黒曜石片
57	11-17	1号住												黒曜石片
58	12- 1	1号住												埋カメ
59	13- 1	1号住			○									後葉
60	13- 2	1号住			○									〃
61	14- 1	1号住		○								11- 8	6- 8	末
62	15- 1	1号住			○									後葉
63	15- 2	1号住			○									〃
64	16- 1	1号住	○									11- 4	6- 4	末
65	16- 2	1号住	○									11- 7	6- 7	〃
66	16- 3	1号住	○									11- 2	6- 2	〃
67	16- 4	1号住			○									後葉
68	16- 5	1号住			○									〃
69	16- 6	1号住			○									〃
70	16- 7	1号住			○									〃
71	17- 1	1号住			○									後葉
72	17- 2	1号住			○									〃
73	17- 3	1号住			○									〃
74	17- 4	1号住			○									〃
75	17- 5	1号住												黒曜石片
76	18- 1	1号住	○											末
77	18- 2	1号住			○									後葉
78	18- 3	1号住			○									〃

整理番号	遺物No.	出土場所	種別									実測図No.	図版No.	備考
			縄文					古	奈・平	中世	近世			
			早	前	中	後	晩							
79	18- 4	1号住			○									後葉
80	19- 1	1号住			○									後葉
81	19- 2	1号住												黒曜石片
82	20- 1	A−1トレンチ	○									15- 4	6−13	末
83	20- 2	〃	○											〃
84	20- 3	〃	○											〃
85	20- 4	〃		○										初頭
86	20- 5	〃			○									後葉
87	20- 6	〃			○									〃
88	20- 7	〃			○									〃
89	20- 8	〃			○									〃
90	20- 9	〃			○									〃
91	20-10	〃			○									後葉
92	20-11	〃			○									〃
93	20-12	〃			○									〃
94	20-13	〃			○									〃
95	20-14	〃												黒曜石片
96	20-15	〃												黒曜石片
97	21	〃				○						15−10	6−20	スリ消文
98	22- 1	〃	○											末
99	22- 2	〃		○										初頭
100	22- 3	〃			○									後葉
101	22- 4	〃			○									〃
102	22- 5	〃			○									〃
103	22- 6	〃			○									〃
104	22- 7	〃			○									〃
105	22- 8	〃			○									〃
106	22- 9	〃			○									〃
107	22-10	〃			○									中葉
235	22-138	〃			○									〃
236	22-139	〃				○								
237	22-140	〃				○								
237	22-141	〃				○								
238	22-142	〃				○								
239	23- 1	〃			○									後葉
240	23- 2	〃			○									〃
241	24- 1	〃				○								中葉
242	24- 2	〃			○							15- 6	6−15	後葉
243	24- 3	〃			○									〃
244	25- 1	〃	○											末
245	25- 2	〃		○										初頭
246	25- 3	〃			○									後葉
247	25- 4	〃												黒曜石片
248	26- 1	〃	○											末
249	26- 2	〃			○									後葉
250	27- 1	〃			○									後葉
261	27- 2	〃			○									〃
121	28- 1	〃			○									後葉
122	28- 2	〃			○									〃
123	28- 3	〃			○									〃
124	28- 4	〃			○									〃
125	29- 1	〃			○									後葉
126	29- 2	〃			○									〃
127	30- 1	〃			○									後葉
128	30- 2	〃			○									〃
129	31	〃			○									中葉
130	32- 1	〃		○										初頭
131	32- 2	〃			○									後葉
132	32- 3	〃			○									後葉
133	33- 1	〃			○									後葉
134	33- 2	〃			○									〃
135	34- 1	〃	○											末
136	34- 2	〃			○									後葉
137	34- 3	〃			○									〃
138	34- 4	〃			○									〃
139	34- 5	〃			○									〃
140	34- 6	〃			○									〃
141	34- 7	〃			○									〃
142	34- 8	〃			○									〃
143	34- 9	〃			○									〃
144	34-10	〃			○									〃
145	34-11	〃			○									〃
146	34-12	〃			○									〃
147	34-13	〃			○									〃
148	34-14	〃			○									〃
149	34-15	〃												黒曜石片
150	35- 1	〃	○									15- 1	6−10	末
151	35- 2	〃			○									後葉
152	35- 3	〃			○									〃
153	35- 4	〃			○									〃

整理番号	遺物No.	出土場所	種別									実測図No.	図版No.	備考
			縄文					古	奈・平	中世	近世			
			早	前	中	後	晩							
154	35- 5	A－1トレンチ			○									後薬
155	35- 6	〃			○									〃
156	35- 7	〃										15-15	10-68	敲打器
157	36	1号住										11-10	10-64	石錘
158	37- 1	1号住			○									後薬
159	37- 2	1号住			○									〃
160	37- 3	1号住			○									〃
161	39- 1	A－1トレンチ		○										初頭
162	39- 2	〃		○										〃
163	39- 3	〃			○									後薬
164	39- 4	〃			○									〃
165	39- 5	〃												黒曜石片
166	40	〃			○									後薬
167	41- 1	2号住												石鏃
168	41- 2	2号住												黒曜石片
169	41- 3	2号住												黒曜石片
170	41- 4	2号住												黒曜石片
171	41- 5	2号住												黒曜石片
172	42- 1	1号住	○									11- 1	6- 1	末
173	42- 2	1号住		○										初頭
174	42- 3	1号住		○										〃
175	42- 4	1号住		○										〃
176	42- 5	1号住			○									後薬
177	42- 6	1号住			○									〃
178	42- 7	1号住			○									〃
179	42- 8	1号住			○									〃
180	42- 9	1号住			○									〃
181	42-10	1号住			○									〃
182	42-11	1号住			○									〃
183	42-12	1号住			○									〃
184	42-13	1号住												黒曜石片
185	42-14	1号住												メンコ
186	43- 1	2号住	○									13- 4	7	末
187	43- 2	2号住	○									13- 3	7	末
188	43- 3	2号住	○									13- 1	7	〃
189	43- 4	2号住	○									13- 2	7	〃
190	43- 5	2号住	○											〃
191	43- 6	2号住	○											〃
192	43- 7	2号住	○											〃
193	43- 8	2号住	○											〃
194	43- 9	2号住	○											〃
195	43-10	2号住	○											〃
196	43-11	2号住	○											〃
197	43-12	2号住	○											〃
198	43-13	2号住	○											〃
199	43-14	2号住	○											〃
200	43-15	2号住	○											〃
201	43-16	2号住	○											〃
202	43-17	2号住	○											〃
203	43-18	2号住	○											〃
204	43-19	2号住	○											〃
205	43-20	2号住	○											〃
206	43-21	2号住	○											〃
207	43-22	2号住	○											〃
208	43-23	2号住	○											〃
209	43-24	2号住	○											〃
210	43-25	2号住	○											〃
221	43-26	2号住	○											〃
222	43-27	2号住	○											〃
223	43-28	2号住	○											〃
224	43-29	2号住	○											〃
225	43-30	2号住	○											〃
226	43-31	2号住	○											〃
227	43-32	2号住	○											〃
228	43-33	2号住	○											〃
229	43-34	2号住	○											〃
230	43-35	2号住	○											〃
231	43-36	2号住	○											〃
232	43-37	2号住	○											〃
233	43-38	2号住	○											〃
234	43-39	2号住	○											〃
235	43-40	2号住	○											〃
236	43-41	2号住	○											〃
237	43-42	2号住	○											〃
238	43-43	2号住	○											〃
239	43-44	2号住	○											〃
240	43-45	2号住	○											〃
241	43-46	2号住	○											〃
242	43-47	2号住	○											〃
243	43-48	2号住	○											〃

整理番号	遺物No.	出土場所	種別									実測図No.	図版No.	備考
			縄文					古	奈・平	中世	近世			
			早	前	中	後	晩							
244	43-49	2号住	○											末
245	43-50	2号住	○											〃
246	43-51	2号住	○											〃
247	43-52	2号住	○											〃
248	43-53	2号住	○											〃
249	43-54	2号住	○											〃
250	43-55	2号住		○										初頭
251	43-56	2号住			○									初頭
252	43-57	2号住			○									〃
253	43-58	2号住			○									〃
254	43-59	2号住			○									〃
255	43-60	2号住			○									〃
256	43-61	2号住			○									〃
257	43-62	2号住			○									〃
258	43-63	2号住				○						13- 5	7	後葉
259	43-64	2号住				○								〃
260	43-65	2号住				○								〃
261	43-66	2号住				○								〃
262	43-67	2号住				○								〃
263	43-68	2号住				○								〃
264	43-69	2号住				○								〃
265	43-70	2号住				○								〃
266	43-71	2号住				○								〃
267	43-72	2号住				○								〃
268	43-73	2号住				○								〃
269	43-74	2号住				○								〃
270	43-75	2号住												黒曜石片
271	43-76	2号住												黒曜石片
272	43-77	2号住												黒曜石片
273	44- 1	2号住		○										末
274	44- 2	2号住		○										〃
275	44- 3	2号住		○										〃
276	44- 4	2号住		○										〃
277	44- 5	2号住		○										〃
278	44- 6	2号住		○										〃
279	44- 7	2号住		○										〃
280	44- 8	2号住		○										〃
281	44- 9	2号住		○										〃
282	44-10	2号住		○										〃
283	44-11	2号住		○										〃
284	45	A−1トレンチ												石器剥片
285	46- 1	〃				○								中葉
286	46- 2	〃				○								〃
287	46- 3	〃				○								〃
288	46- 4	〃						○				15−11	6−19	
289	47- 1	〃			○									初頭
290	47- 2	〃				○								後葉
291	47- 3	〃												横刃型石器、粘盤岩
292	47- 4	〃										15−14	10−67	局部磨石斧、粘盤岩
293	48- 1	〃		○										末繊維土器
294	48- 2	〃		○										末繊維土器
295	48- 3	〃												黒曜石片
296	49- 1	〃			○									初頭？
297	49- 2	〃			○									初頭？
298	49- 3	〃			○									初頭？
299	49- 4	〃				○								後葉
300	49- 5	〃				○								〃
301	49- 6	〃				○								〃
302	49- 7	〃				○								〃
303	50- 1	〃		○										末
304	50- 2	〃		○										〃
305	50- 3	〃		○										〃
306	50- 4	〃		○										〃
307	50- 5	〃		○										〃
308	50- 6	〃		○										〃
309	50- 7	〃		○										〃
310	50- 8	〃		○										〃
311	50- 9	〃		○										〃
312	50-10	〃			○									初頭
313	50-11	〃			○									〃
314	50-12	〃				○								後葉
315	50-13	〃				○								〃
316	50-14	〃				○								〃
317	50-15	〃												横刃型石器
318	50-16	〃												打石斧
319	50-17	〃												チャート
320	50-18	〃												チャート
321	50-19	〃												チャート
322	50-20	〃												黒曜石片
323	50-21	〃												黒曜石片

整理番号	遺物No.	出土場所	種別									実測図No.	図版No.	備考
			縄文					古	奈・平	中世	近世			
			早	前	中	後	晩							
324	50-22	A－1トレンチ												黒曜石片
325	51- 1	〃	○											初頭
326	51- 2	〃	○											〃
327	51- 3	〃												
328	51- 4	〃			○									中葉
329	51- 5	〃			○									〃
330	51- 5	〃			○									〃
331	51- 6	〃			○									〃
332	51- 7	〃			○									〃
333	51- 8	〃			○									〃
334	51- 9	〃			○									〃
335	51-10	〃			○									〃
336	51-11	〃			○									後葉
337	51-12	〃			○									〃
338	51-13	〃			○									〃
339	51-14	〃			○									〃
340	51-15	〃			○									〃
341	51-16	〃			○									〃
342	51-17	〃			○									〃
343	51-18	〃			○									〃
344	51-19	〃			○									〃
345	51-20	〃			○									〃
346	51-21	〃			○									〃
347	51-22	〃			○									〃
348	51-23	〃			○									〃
349	51-24	〃			○									〃
340	51-25	〃						○						土師器
341	52- 1	〃			○									中葉
342	52- 2	〃			○									〃
343	52- 3	〃			○									〃
344	- 1	〃	○											末
345	- 2	〃		○										初頭
346	- 3	〃		○										〃
347	- 4	〃			○									後葉
348	- 5	〃			○									〃
349	- 6	〃			○									〃
350	- 7	〃			○									〃
351	- 8	〃			○									〃
352	- 9	〃			○									〃
353	-10	〃			○									〃
354	-11	〃			○									〃
355	-12	〃			○									〃
356	-13	〃			○									〃
357	-14	〃			○									〃
358	-15	〃			○									〃
359	-16	〃			○									〃
360	-17	〃			○									〃
361	-18	〃			○									〃
362	-19	〃			○									〃
363	-20	〃			○									〃
364	-21	〃			○									〃
365	-22	〃			○									〃
366	-23	〃			○									〃
367	-24	〃			○									〃
368	-25	〃			○									〃
369	-26	〃			○									〃
370	-27	〃			○									〃
371	-28	〃			○									〃
372	-29	〃			○									〃
373	-30	〃			○									〃
374	-31	〃			○									〃
375	-32	〃			○									〃
376	-33	〃			○									〃
377	-34	〃			○									〃
378	-35	〃			○									〃
379	-36	〃			○									〃
380	-37	〃			○									〃
381	-38	〃			○									〃
382	-39	〃			○									〃
383	-40	〃			○									〃
384	-41	〃			○									〃
385	-42	〃			○									〃
386	-43	〃			○									〃
387	-44	〃			○									〃
388	-45	〃			○									〃
389	-46	〃			○									〃
390	-47	〃			○									〃
391	-48	〃			○									〃
392	-49	〃			○									〃
393	-50	〃			○									〃

整理番号	遺物No.	出土場所	種別									実測図No.	図版No.	備考
			縄文					古	奈・平	中世	近世			
			早	前	中	後	晩							
394	-51	A－1トレンチ			○									後葉
395	-52	〃			○									〃
396	-53	〃			○									〃
397	-54	〃			○									〃
398	-55	〃			○									〃
399	-56	〃			○									〃
400	-57	〃			○									〃
401	-58	〃			○									〃
402	-59	〃			○									〃
403	-60	〃			○									〃
404	-61	〃			○									〃
405	-62	〃												黒曜石片
406	-63	〃												打石斧
407	-64	〃												打石斧
408	-65	〃												局部磨石斧
409	-66	〃												敲打器
410	表採	A地区上			○									中葉
411	表採	A地区上			○									〃
412	表採	A地区上			○									〃
413	表採	A地区上			○									後葉
482	表採	A地区上			○									〃
483	表採	A地区上												横刃型石器
484	表採	A地区上												石匙
485	表採	A地区上												打石斧
486	表採	A地区上												敲打器
487	表採	A地区上												敲打器
488	表採	A地区上												敲打器
489	表採	A地区上												黒曜石スクレーパー
490	表採	A地区上												黒曜石スクレーパー
491	表採	A地区上												チャート
492	表採	A地区上												チャート
493	表採	A地区上												チャート
494	表採	A地区上												チャート
495	表採	A地区上												チャート
496	表採	A地区上												チャート
497	表採	A地区上												チャート
498	表採	A地区上												チャート
499	表採	A地区上												チャート
500	表採	A地区上												チャート
501	表採	A地区上												黒曜石片
502	表採	A地区上												黒曜石片
503	表採	A地区上												黒曜石片
504	表採	A地区上												黒曜石片
505	表採	A地区上												黒曜石片
506	表採	A地区上												黒曜石片
507	表採	A地区上												黒曜石片
508	表採	A地区上												黒曜石片
509	表採	A地区上												黒曜石片
510	表採	A地区上												黒曜石片
511	表採	A地区上												黒曜石片
512	表採	A地区上												黒曜石片
513	表採	A地区上												黒曜石片
514	表採	A地区上												黒曜石片
515	表採	A地区上												灯明皿鉄釉
516	表採	A地区上												灯明皿灰釉
517	表採	A地区上												染付陶器片
518	表採	A地区上												鉄釉陶器片
519	表採	A地区下	○											末
520	表採	A地区下	○											〃
521	表採	A地区下	○											〃
522	表採	A地区下		○										初頭
523	表採	A地区下		○										〃
524	表採	A地区下		○										〃
525	表採	A地区下		○										〃
526	表採	A地区下		○										〃
527	表採	A地区下		○										〃
528	表採	A地区下		○										〃
529	表採	A地区下			○									中葉
530	表採	A地区下			○									後葉
760	表採	A地区下			○									〃
761	表採	A地区下				○								
762	表採	A地区下						○						土師器
763	表採	A地区下						○						〃
764	表採	A地区下						○						〃
765	表採	A地区下						○						〃
766	表採	A地区下						○						〃
767	表採	A地区下							○					灰釉陶器片
768	表採	A地区下							○					須恵器片
769	表採	A地区下									○			染付陶器片
770	表採	A地区下									○			染付陶器片

整理番号	遺物No.	出土場所	種別									実測図No.	図版No.	備考
			縄文					古	奈・平	中世	近世			
			早	前	中	後	晩							
771	表採	A地区下									○			染付陶器片
772	表採	A地区下									○			白磁
773	表採	A地区下									○			白磁
774	表採	A地区下									○			灰釉陶器片
775	表採	A地区下									○			灰釉陶器片、江戸末
776	表採	A地区下												打石斧
777	表採	A地区下												打石斧
778	表採	A地区下												打石斧
779	表採	A地区下												打石斧
780	表採	A地区下												半磨石斧
781	表採	A地区下												敲打器
782	表採	A地区下												横刃型石器
783	表採	A地区下												黒曜石スクレーパー
784	表採	A地区下												黒曜石片
785	表採	A地区下												黒曜石片
786	表採	A地区下												黒曜石片
787	表採	A地区下												黒曜石片
788	表採	A地区下												黒曜石片
789	表採	A地区下												黒曜石片
790	表採	A地区下												黒曜石片
791	表採	A地区下												黒曜石片
792	表採	A地区下												黒曜石片
793	表採	A地区下												黒曜石片
794	表採	A地区下												黒曜石片
795	表採	A地区下												黒曜石片
796	表採	A地区下												黒曜石片
797	表採	A地区下												黒曜石片
798	表採	A地区下												黒曜石片
799	表採	A地区下												チャート剥片
800	表採	A地区下												チャート剥片
801	表採	A地区下												チャート剥片
802	表採	A地区下												チャート剥片
803	表採	C地区												鉄釉おろし皿
804	表採	C地区												長石釉陶器片、瀬戸
805	表採	C地区												打石斧
806	表採	C地区												敲打器

ま と め

畑地帯総合土地改良事業伊那西部地区が、昨年度にひきつづき実施するに伴ない、埋蔵文化財の緊急発掘調査にあたり、その調査のなかで知り得た二、三の問題点について述べてみる。

1．伊勢並遺跡は、過去における研究の経過をたどってみると、昭和16年10月発行の考古学雑誌第三十一巻十号に塩原伝氏が、伊那市西町八人塚の調査を報告している。報告によると古墳の規模は東西13m、南北15m、高さ1.4mの楕円形の古墳であった。古墳の石室構造は南北6.0m東西1.2m、高さ1.2mの横穴式石室で、西側に2箇所1mほどの側室を備えた石室で、構造はB形型式とされている。出土遺物は遺骸・直刀・刀子・鉄鏃・鉄槍・管玉・小玉・鐸などが発見された。以上調査の成果より6世紀末～7世紀代の古墳とされている。また、八人塚古墳の北側に狐塚南古墳がある。この古墳の付近が土取場となったので、伊那市教育委員会が昭和50年に緊急発掘調査を実施したところ、石室内から鍍金製の杏葉と多くの骨片が出土した。これら出土遺物から七世紀末頃の古墳と推定される。また、この古墳の北に横穴式の狐塚北古墳が存在している。これら三基の古墳は年代6世紀末から7世紀代であるところから、伊勢並古墳と考えられている。

2．伊勢並遺跡からは、上伊那郡誌に掲載されている青色珪岩製の掻器と、頁岩製の葉状尖頭器が表面採集ではあるが発見されているところから、伊勢並遺跡は伊那市における旧石器時代の遺跡としても注目しなければならない重要な遺跡である。また、昭和38年の伊勢並遺跡調査では伊那中考古クラブが林茂樹氏の指導により調査を行った。その結果地表下1.0mに達するまでに、古墳時代・弥生・縄文中期・早期の遺物が層位的に包含されていることが判明した。出土した遺物は椛ノ湖II式土器・格子目文の押型文、天神山式・木島式などの土器と、石器では小形片刃・磨製石斧・石鏃・骨石製有孔の玉類などが検出されたと報告されている。これら発掘の成果から伊勢並遺跡は縄文早期から古墳時代にいたる複合遺跡であることを位置付けられた。

3．今回の発掘では、1号住からは貝殻条痕文の茅山上層・茅山下層式・薄手指痕文・細い粘土紐をひらたくはり付け貝殻条痕が施された宮の原式土器・羽状縄文の花積下層と考えられる土器などが出土した。こうした出土状況から本址は早期末から前期初頭にかけての住居址と考えた。第2号住からは繊維を含んだ茅山上層式・入海I式・縄文中期曽利II式などが発見されたが、総じて縄文中期後葉の住居址とした。

4．そのほかトレンチからは、茅山上層・茅山下層・入海I式・繊維を含んだ前期初頭型式・中期後葉曽利III・IV式・後期などが検出された。

5．表面採集では、早期末の土器、薄手指痕の東海系土器、中厚手の中越式土器・須恵器・灰釉陶器（平安時代）や江戸時代の燈明皿などが採集された。以上の成果から伊勢並遺跡は旧

石器から縄文早期・前期・中期・後期・弥生後期・古墳・平安時代の複合遺跡であることを確認することが出来た。また、この地域が小黒川断層のある地域で松島信幸・寺平宏両氏の研究成果にも注目すべきものがあった。本報告書の編集にあたっては教育委員会の早川宏によって刊行された。

伊勢並遺跡調査団長　友野良一

参考文献

上伊那教育会	「先史及び原始時代の上伊那」	1926
上伊那教育会	「上伊那誌」歴史編	1965
伊那市史刊行会	「伊那市史」歴史編	1974
諏訪郡富士見町	「曽利」	1978
千曲川水系古代文化研究所	「編年」	1980
長野県史刊行会	「長野県史」考古資料編　全１巻（三）	1981
日本考古学協会	「日本考古学辞典」	1981
瀬戸市民俗資料館	「研究紀要」１	1982
小学館	「縄文土器大観」１	1989
伊那市教育委員会	「小黒南原・伊勢並遺跡」	1992

図　　版

図版1

第１号住居址

第２号住居址

八人塚古墳

A－1トレンチ
（西から）

A－1トレンチ
（東から）

図版3

B－1トレンチ
（西から）

B－1トレンチ
（東から）

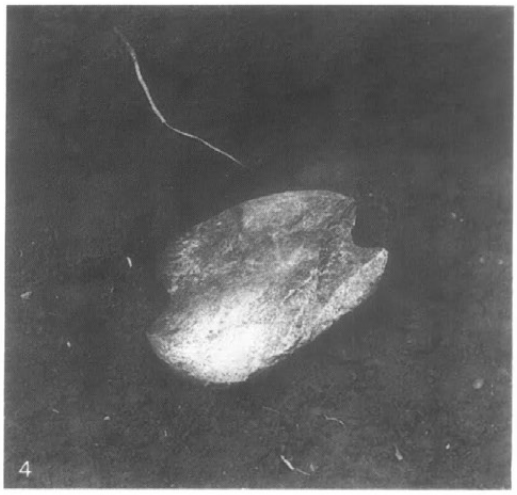
B－2トレンチ
（西から）

B－2トレンチ
（東から）

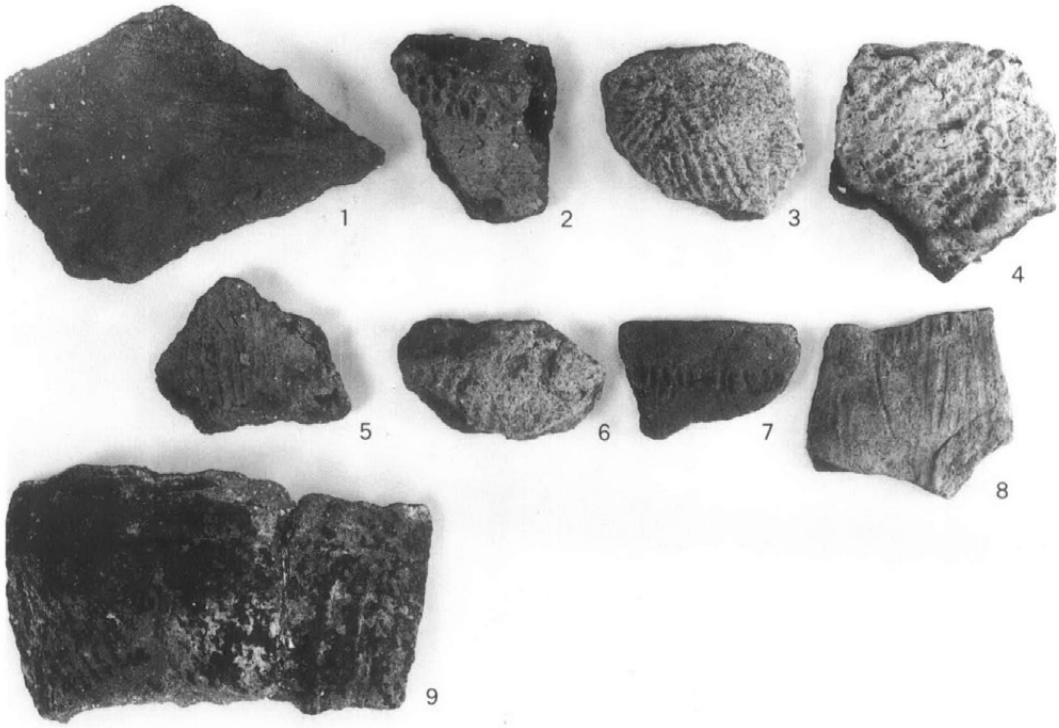
C－1トレンチ
（西から）

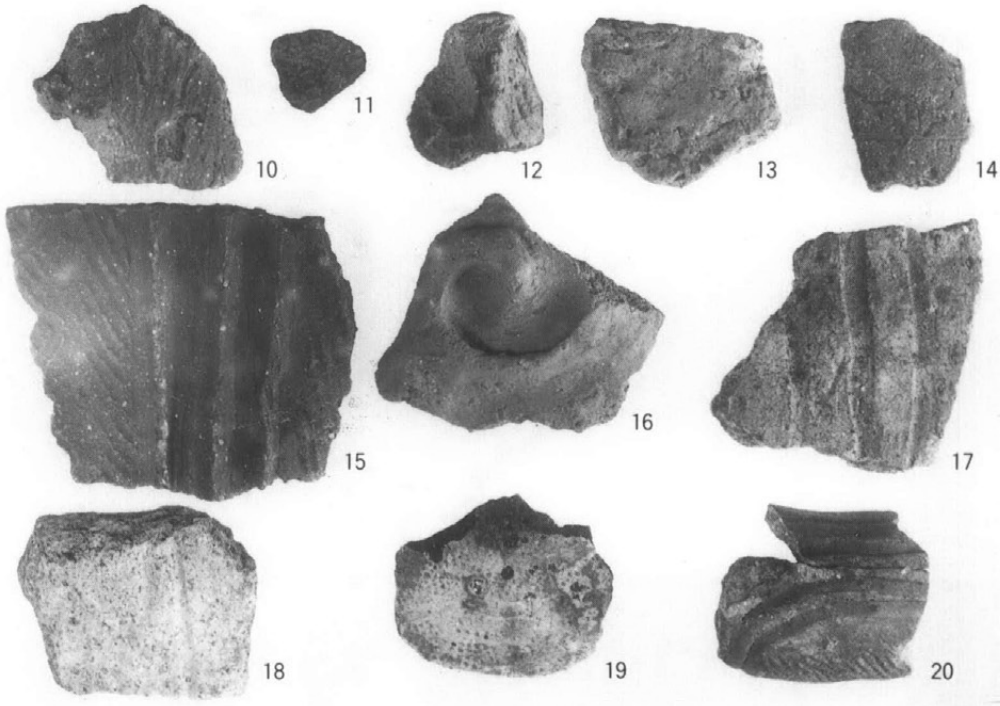
C－1トレンチ
（東から）

図版5



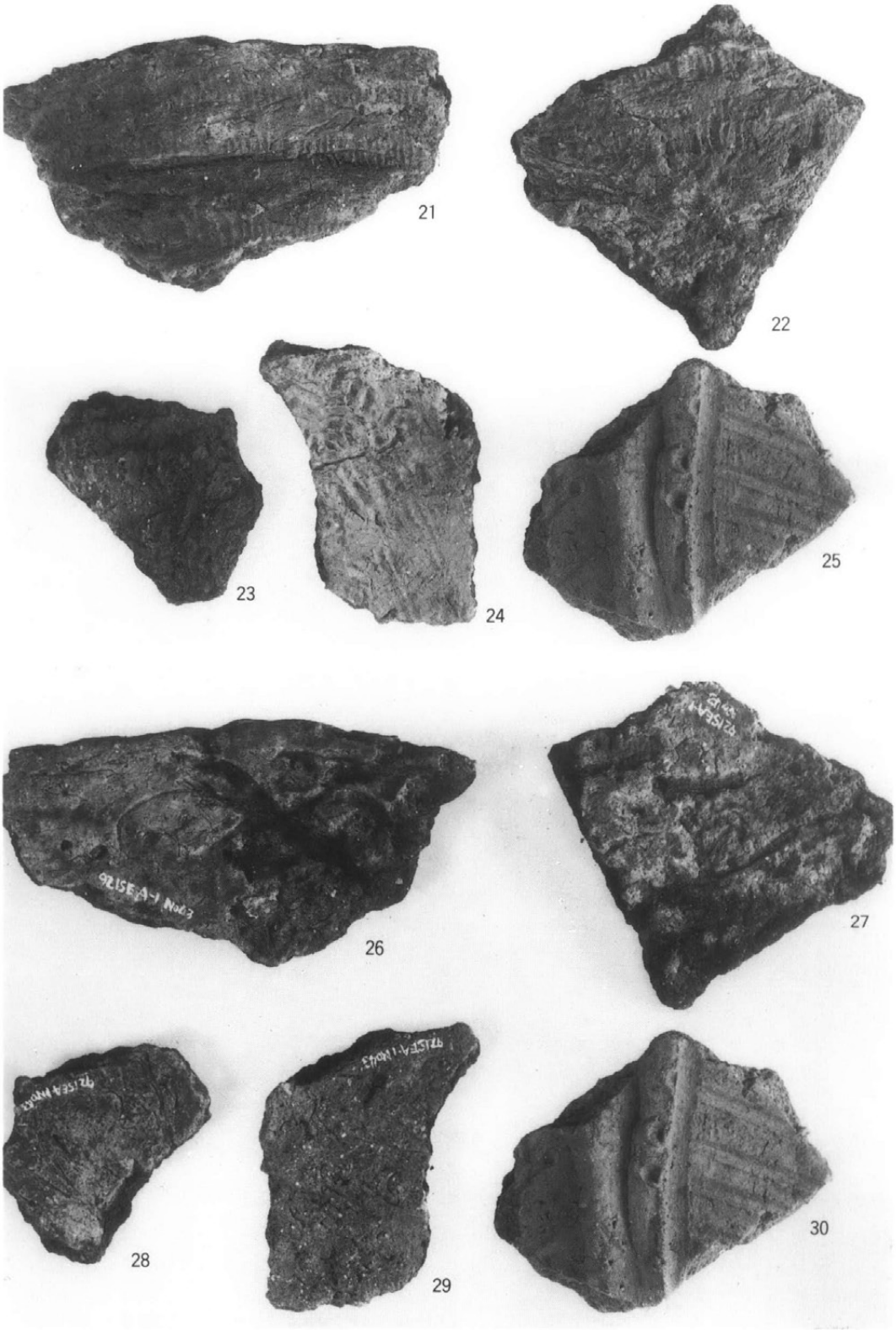
1～3．A－1トレンチ遺物出土状況　4．1号住（No.36）石錘



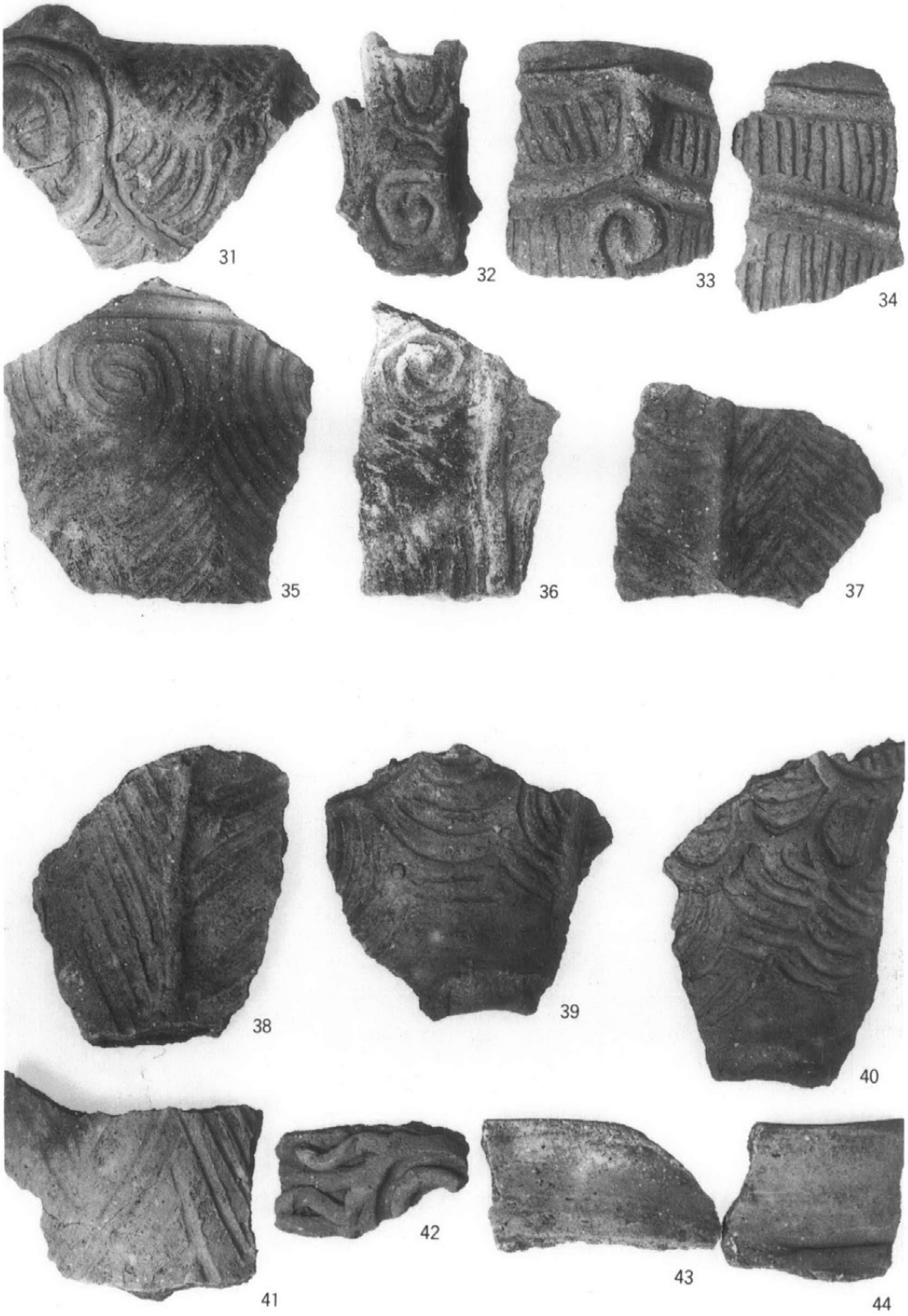


1～9．1号住出土遺物　10～20．A－1トレンチ出土遺物

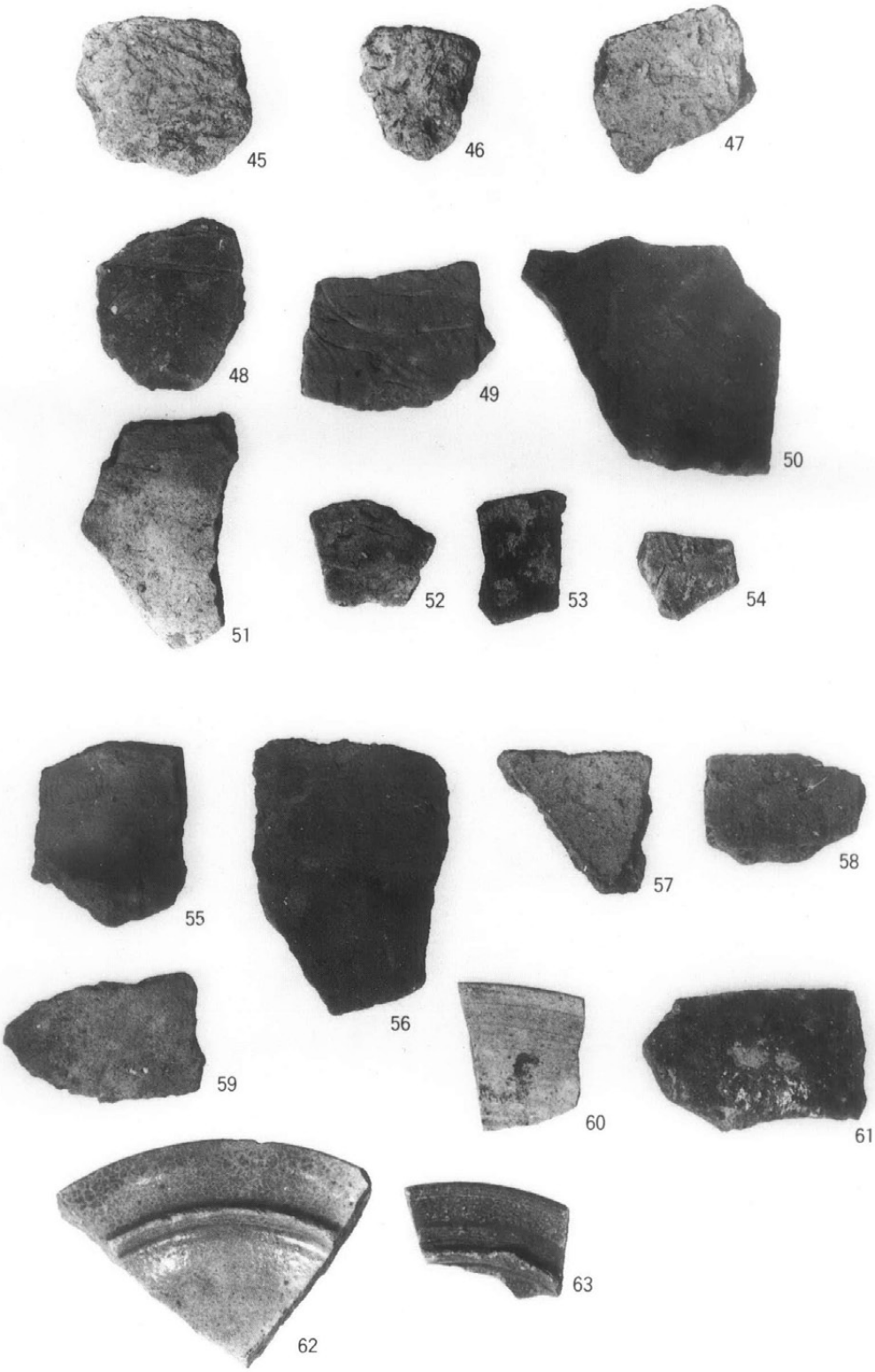
図版7



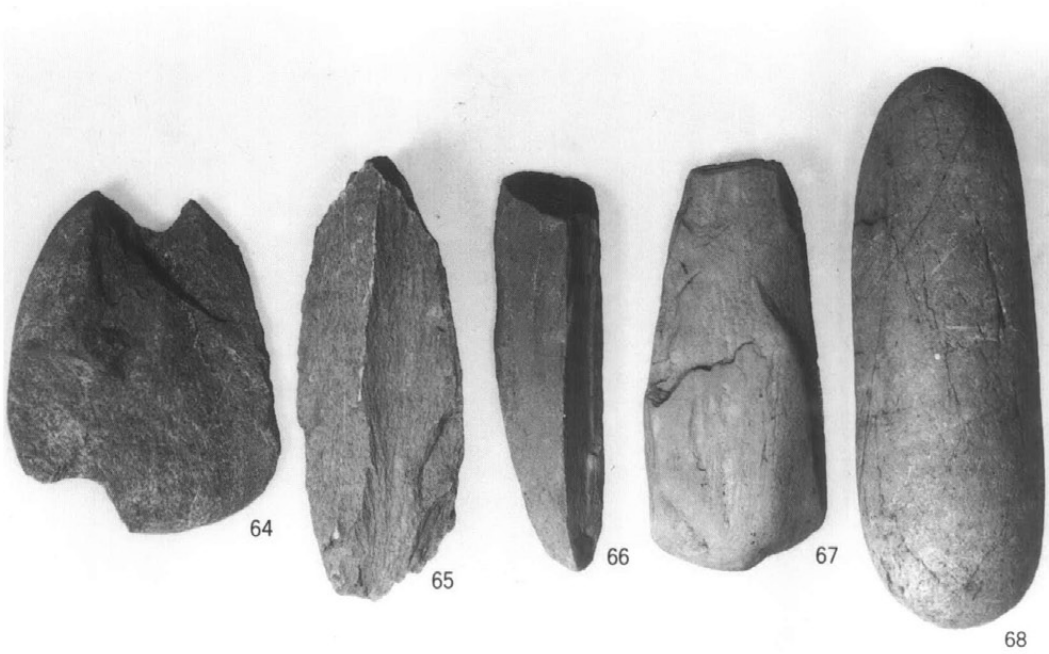
21～25. 2号住出土遺物　26～29. 同上裏



31～44. A－1トレンチ（No.22）出土遺物



45～63.表面採集　遺物



64．1号住（No.36）　65～68．A－1トレンチ出土

伊　勢　並　遺　跡

―― 緊急発掘調査報告書 ――

平成5年3月　発　行

発　　行　上伊那地方事務所
　　伊那市教育委員会

印　　刷　㈱小松総合印刷所